



横浜みどりアップ計画4か年の評価・提案

～横浜みどりアップ計画市民推進会議 2022年度報告書～

目 次

1	はじめに	1
2	横浜みどリアップ計画と市民推進会議	2
	(1) 横浜みどリアップ計画	
	(2) 横浜みどリアップ計画市民推進会議	
3	市民推進会議の活動実績	5
	(1) 活動の概要	
	(2) 活動の詳細内容	
	①市民推進会議（全体会議）	
	②施策別専門部会	
	③広報・見える化部会	
	④調査部会（現地調査）	
4	横浜みどリアップ計画 4か年の評価・提案	16
	◆計画の体系	
	◆各計画の柱のハイライト	
	◆評価・提案の概要	
	(1) 計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む	22
	施策1 樹林地の確実な保全の推進	
	施策2 良好な森を育成する取組の推進	
	施策3 森と市民とをつなげる取組の推進	
	(2) 計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる	32
	施策1 農に親しむ取組の推進	
	施策2 地産地消の推進	
	(3) 計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる	42
	施策1 市民が実感できる緑をつくり、育む取組の推進	
	施策2 緑や花に親しむ取組の推進	
	(4) 効果的な広報の展開	50
	市民の理解を広げる広報の展開	
5	市民推進会議委員名簿	56
6	市民推進会議委員からのコメント	59
7	市民推進会議広報誌「Yokohama みどリアップ Action」、 「森づくり体験会」の案内チラシ	65

1 はじめに

この報告書は、第3期「横浜みどりアップ計画」の4か年の事業・取組に対する「横浜みどりアップ計画市民推進会議」による評価・提案をまとめたものです。

横浜みどりアップ計画では、市民税の超過課税である横浜みどり税を財源の一部として活用し、樹林地や水田の保全、身近な緑の創出など、様々な緑の保全と創造に取り組んでいます。

市民推進会議は、横浜みどりアップ計画の取組に対して評価・提案を行うための組織であり、現地調査や、施策別の各部会による検討などの活動を行っています。また、計画の進捗状況に対する評価・提案のみならず、横浜市における緑のあり方などについて、より市民目線で考えるとともに、横浜みどりアップ計画の取組を市民に分かりやすくお伝えするための活動にも力を入れています。

2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響下ながら対面の会議開催を工夫し熱心な議論を重ね、4か年の評価提案をまとめました。

現地調査では、計画の柱である森、農、緑化の現場に実際に赴いて説明を受けることで、各取組の効果や市民生活との関わりを理解することができました。

市民推進会議が発行する広報誌「Yokohama みどりアップ Action」は、広報・見える化部会のメンバーが自ら現場の声や現地の様子を取材し、市民目線で感じた緑の魅力を伝え、多くの市民が緑を知るきっかけになるように構成やデザインを工夫して発行されたものですので、広く市民の目に触れるようご支援ください。

これまで、それぞれの施策の中で多くの事業を展開し、実績を積み重ねてきました。横浜みどりアップ計画の3つの柱は、すべてつながっています。今後はトータルに「GREEN」を考える市民社会・横浜を目指すことが、次のステップではないでしょうか。

2027年には横浜市でGREEN×EXPO 2027 国際園芸博覧会が開催されます。園芸博覧会は、花だけを見せる場ではありません。横浜市がこれまで培ってきた、花と緑、食と農、森、そして生命などとの様々な取組を世界に発信する場となるでしょう。

2023年度は、第3期みどりアップ計画5か年の最後の年となります。これまでよりさらに一歩前進して取組を進め、GREEN×EXPO 2027（2027年国際園芸博覧会）につなげていただくことを期待しております。

横浜みどりアップ計画市民推進会議
座長 進士 五十八

2 横浜みどりアップ計画と市民推進会議

(1) 横浜みどりアップ計画

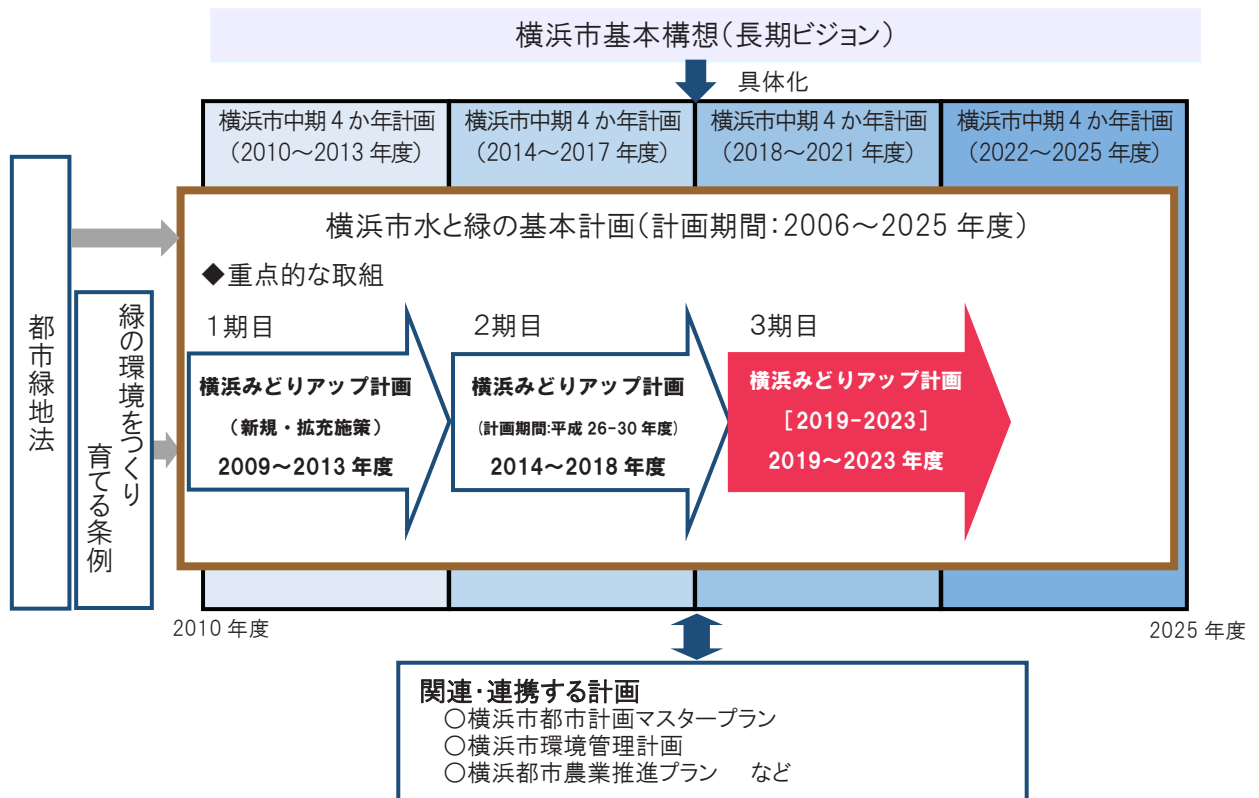
ア 位置付け

横浜市は、大都市でありながら、市民生活の身近な場所にまとまった規模の樹林地や農地などがあり、また、起伏に富んだ地形から、変化に富んだ水や緑の環境を有しています。この緑の環境を生かし、次世代へ引き継いでいくため、市は2025年度を目標年次とした「横浜市水と緑の基本計画」を2006年に策定し、計画に基づき長期的な視点から「横浜らしい水・緑環境の実現」に向けた取組を展開しています。

1期目となる「横浜みどりアップ計画(新規・拡充施策)」は、2008年度までの取組を強化・充実するため2009年度から2013年度までの5か年の事業計画として策定されました。また、「横浜みどり税」は、取組を進めるための重要な財源として2009年度から導入されました。

緑の保全や創造は長い時間をかけて継続的に取り組むことが重要であることから、2期目となる「横浜みどりアップ計画(計画期間:平成26-30年度)」が策定されました。

さらに、2期目の取組の成果や課題、市民意見募集結果などを踏まえ、3期目となる「横浜みどりアップ計画[2019-2023]」が策定されました。



【図】横浜みどりアップ計画 [2019-2023] の位置付け

イ 横浜みどりアップ計画[2019-2023]の構成

2019年度より、3期目の「横浜みどりアップ計画」に基づき、「みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜」を理念とし、5か年の目標を設定しました。目標の実現に向け、横浜みどりアップ計画では、「市民とともに次世代につなぐ森を育む」「市民が身近に農を感じる場をつくる」「市民が実感できる緑や花をつくる」を3つの柱とした取組と効果的な広報を推進しています。

計画の理念 みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜

5か年の目標

1 緑の減少に歯止めをかけ、総量の維持を目指します

緑地保全制度による指定が進むことで樹林地の担保量が増加、水田の保全面積を維持、市街地で緑を創出する取組が進展 など

2 地域特性に応じた緑の保全・創出・維持管理の充実により緑の質を高めます

森の保全管理など緑の多様な機能や役割を発揮する取組の進展、緑や花の創出により街の魅力・賑わいが向上 など

3 市民と緑との関わりを増やし、緑とともにある豊かな暮らしを実現します

森に関わるイベントや農作物の収穫体験、地域の緑化活動など、市民や事業者が緑に関わる機会が増加 など

計画の柱 1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

森(樹林地)の多様な機能や役割に配慮しながら、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承します。

計画の柱 2 市民が身近に農を感じる場をつくる

良好な景観形成や生物多様性の保全など、農地が持つ環境面での機能や役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

計画の柱 3 市民が実感できる緑や花をつくる

街の魅力を高め、賑わいづくりにつながる緑や花、街路樹などの緑の創出に、緑のネットワーク形成も念頭において取り組めます。また、地域で緑を創出・継承する市民や事業者の取組を支援します。



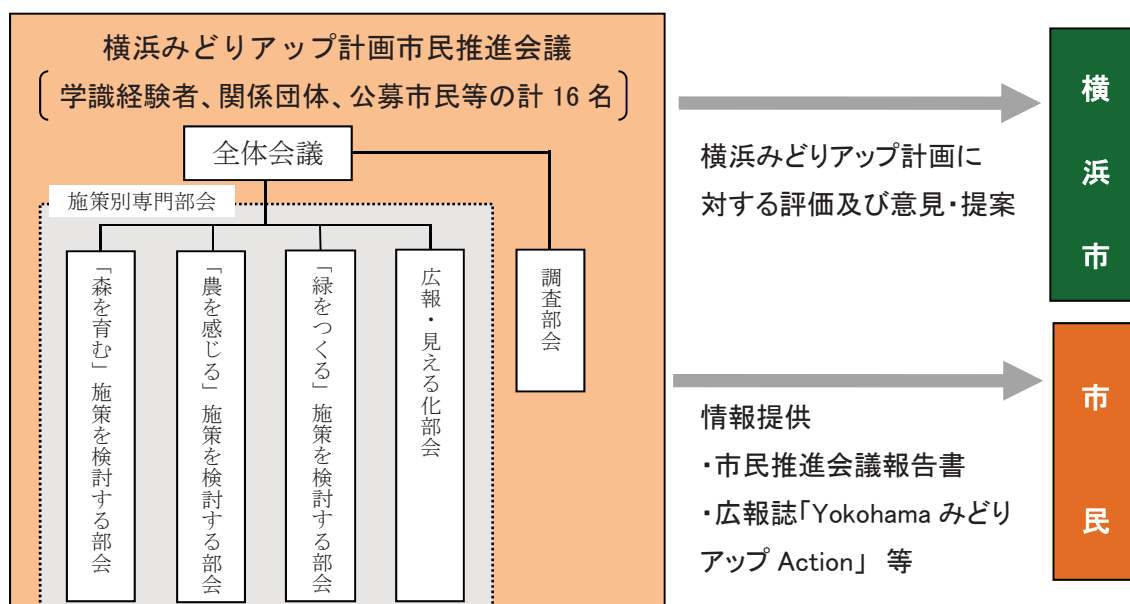
効果的な広報の展開

(2) 横浜みどりアップ計画市民推進会議

横浜みどりアップ計画市民推進会議は、市民参加の組織により、横浜みどりアップ計画の評価及び意見・提案、市民への情報提供等を行うことを目的として、2009年に設置され、2012年からは条例設置の附属機関に位置付けられました。これまでに全体会議や施策別専門部会の開催に加え、参加市民を公募したオープンフォーラムや現地調査を実施し、市民意見の聴取にも努め、計画の評価・提案を行ってきました。

横浜みどりアップ計画を推進するうえで、市民推進会議の取組は大きな役割を果たしており、3期目の横浜みどりアップ計画についても継続して活動することとなりました。

2019年度からは新たな委員も含め、学識経験者や関係団体、町内会・自治会代表、公募市民の計16名で活動しています。(56頁に委員名簿を掲載)



横浜市附属機関設置条例第2条第2項本文：

附属機関(※)の担任する事務は、別表担当事務の欄に掲げるとおりとする。

別表(抜粋)

執行機関	附属機関	担当事務	委員の定数
(中 略)			
市長	横浜みどりアップ計画市民推進会議	横浜市域の樹林地及び農地の保全並びに緑化の推進を図ることを目的とする横浜みどりアップ計画に係る施策及び事業についての情報提供、評価等に関する事務	20人以内
(以下省略)			

※附属機関とは、法律又は条例に基づき設置する機関で、市長等の執行機関の要請により、行政執行のために必要な審査、審議、調査等を行うことを職務とする機関。

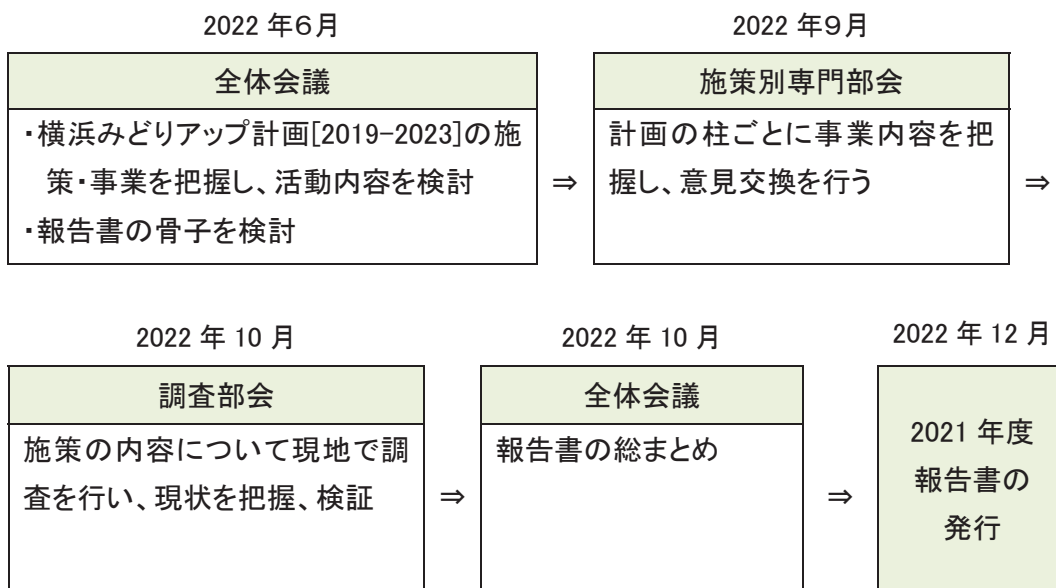
3 市民推進会議の活動実績

(1)活動の概要

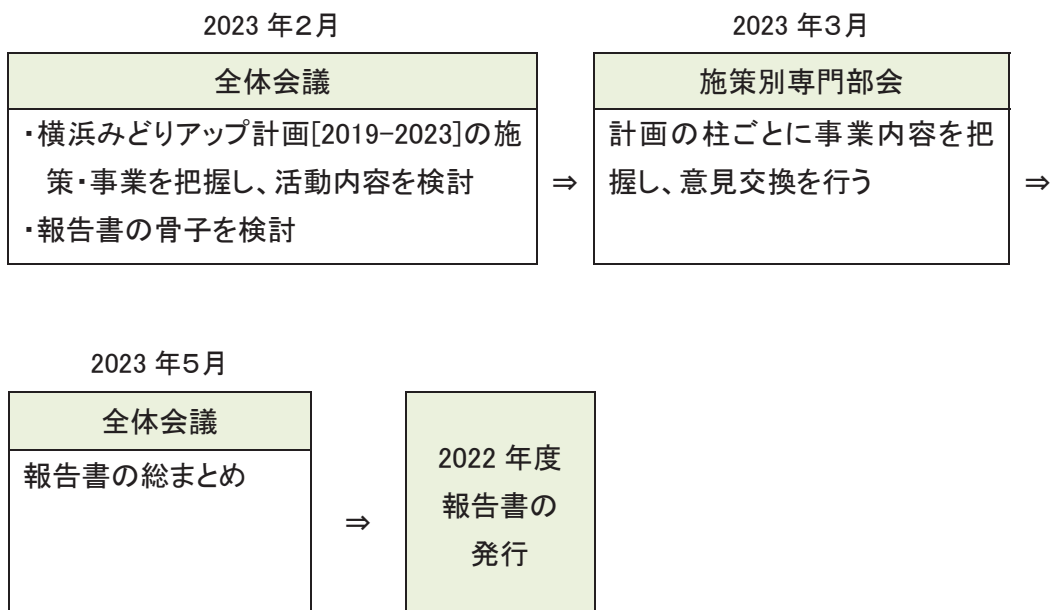
市民推進会議の主な活動は、「横浜みどりアップ計画に対する評価及び意見・提案」と「市民への情報提供」の2つです。

ア 横浜みどりアップ計画に対する評価及び意見・提案

【2021 年度報告書】

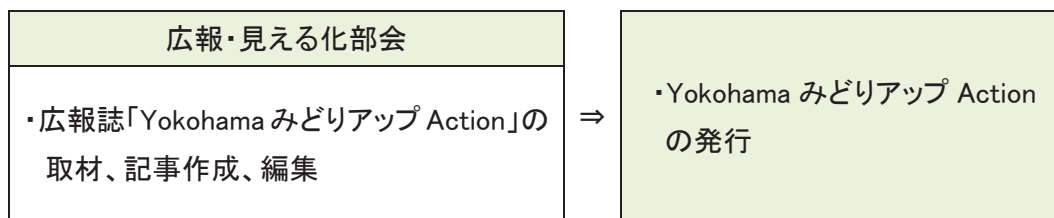


【2022 年度報告書】



イ 市民への情報提供

2022年8月・9月・11月・2023年3月



2022年度は引き続き新型コロナウイルス感染症防止対策として、WEBを併用したり
モート会議の開催や飛沫感染防止のマスク着用、手指消毒を徹底し、活動に取り組み
ました。

(2) 活動の詳細内容

ア 市民推進会議(全体会議)

市民推進会議の全体会議において、部会の構成や調査の実施など年間の活動内
容を確認し、横浜みどりアップ計画の内容、進捗状況について説明を受けて、質疑応
答、意見交換を行いました。

(ア) 第36回市民推進会議(2022年6月15日)

- ・横浜みどりアップ計画3か年の進捗状況について
- ・市民推進会議 2021年度報告書骨子案について

(イ) 第37回市民推進会議(2022年10月28日)

- ・横浜みどりアップ計画3か年の事業実績について
- ・市民推進会議 2021年度報告書(案)について
- ・市民推進会議 2023年度の取組について



(ウ) 第38回市民推進会議(2023年2月3日)

- ・横浜みどりアップ計画4か年の進捗状況について
- ・市民推進会議 2022年度報告書骨子案について
- ・これからの緑の取組[2024-2028](素案)について

(エ) 第39回市民推進会議(2023年5月26日)

- ・横浜みどりアップ計画4か年の進捗状況について
- ・市民推進会議 2022年度報告書(案)について

イ 施策別専門部会

計画の柱ごとに施策別専門部会を設置し、事業分野ごとに詳細に説明を受け、意見交換を行いました。

※2014 年度からは「広報部会」、「見える化部会」を合わせ、「広報・見える化部会」を設置しているため、「効果的な広報の展開」事業に対する評価・提案については、「広報・見える化部会」にて実施しています。

(ア) 第15回「森を育む」施策を検討する部会(2022年9月6日)

・「森を育む」施策の評価・提案について

(イ) 第15回「農を感じる」施策を検討する部会(2022年9月15日)

・「農を感じる」施策の評価・提案について

(ウ) 第15回「緑をつくる」施策を検討する部会(2022年9月6日)

・「緑をつくる」施策の評価・提案について

(エ) 第16回「森を育む」施策を検討する部会(2023年3月13日)

・「森を育む」施策の評価・提案について

(オ) 第16回「農を感じる」施策を検討する部会(2023年3月27日)

・「農を感じる」施策の評価・提案について

(カ) 第16回「緑をつくる」施策を検討する部会(2023年3月29日)

・「緑をつくる」施策の評価・提案について



「森を育む」施策を検討する部会



「農を感じる」施策を検討する部会



「緑をつくる」施策を検討する部会

ウ 広報・見える化部会

2014年度からは「広報部会」、「見える化部会」を合わせ、「広報・見える化部会」を設置しているため、施策別専門部会として横浜みどりアップ計画の広報について評価・提案を行うとともに、横浜みどりアップ計画や横浜みどり税についての情報提供のあり方の検討や広報誌の編集を行っています。

広報誌「YokohamaみどりアップAction」では、横浜みどりアップ計画の取組が進んでいる現場取材した上で、緑の魅力をいかに伝え、「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような内容とするために毎号議論を重ね、市民目線の現場レポートを作り上げています。2022年度は第7・8号を発行しました。駅及び主要な公共施設のPRボックスや、各区役所・土木事務所・公園緑地事務所等の公共施設で配布するとともに、市のホームページでも公開しています。

(ア) Yokohama みどりアップ Action 第7号取材(2022年7月5日)

- ・ テーマ：市民農業大学講座
(保土ケ谷区環境活動支援センター)

(イ) 第50回広報・見える化部会(2022年8月12日)

- ・ Yokohama みどりアップAction 7号原稿案について
- ・ Yokohama みどりアップAction 8号記事内容について

(ウ) 第51回広報・見える化部会(2022年9月21日)

- ・ 広報事業の評価・提案について

(エ) Yokohama みどりアップ Action 第8号取材(2022年9月13日、10月10日)

- ・ テーマ：森づくりボランティア入門講座
(緑区にいほる里山交流センター／新治市民の森)

(オ) 第52回広報・見える化部会(2022年11月25日)

- ・ Yokohama みどりアップAction 8号原稿案について
- ・ 2023年度Yokohama みどりアップAction について

(カ) 第53回広報・見える化部会(2023年3月15日)

- ・ 広報事業の評価・提案について



Action 第7号取材の様子



広報・見える化部会

2022年度に発行した「Yokohama みどリアップ Action」

○ YokohamaみどリアップAction 第7号

《発行月》 2022年10月

《発行部数》 18,500部

《テーマ》 市民農業大学講座

(保土ヶ谷区環境活動支援センター)



横浜の「農」と「緑」を守る担い手育成

農作業の手伝いや公園・緑地などのボランティア活動に興味のある方は必見です。地域で活躍できる「みどり」の助っ人を育成する「市民農業大学講座」をご紹介します。

○ YokohamaみどリアップAction 第8号

《発行月》 2023年2月

《発行部数》 18,500部

《テーマ》 森づくりボランティア入門講座

(緑区にいहार里山交流センター／新治市民の森)



森を知り、学び、体験する

「横浜の森ってどんなところ?」「森づくりって何をやるの?」そんな声に応えた「森づくりボランティア入門講座」を参加者の声とともにをご紹介します。

エ 調査部会(現地調査)

<第22回調査部会>

日 時 2022年10月21日(金) 午後1時10分～午後4時45分
参 加 者 委員8名
調査場所 フローラルつなしま運営委員会(港北区)
環状2号線 新横浜駅周辺(港北区)
今井・境木市民の森(保土ヶ谷区)
本宿農園(旭区)

- (ア) 市民と連携した緑のまちづくりに取り組む現場を調査(フローラルつなしま運営委員会)
港北区綱島西で市民との協働により緑化を進めている現場を見学しました。取組を進めたフローラルつなしま運営委員会の方々から、緑化計画や活動の概要、まちの歴史などについて説明を受けました。



育苗場所の視察



まちのシンボルとなっている「ピーチ花壇」

<委員の感想や主な意見>

- 綱島地域のガーデニングは綱島地区センターが起点になり、点から線、線から面へと緑化ゾーンが着実に拡大したとのこと。緑化された花壇やプランターには、みどりアップ計画のロゴプレートが設置されているものもありました。
- 綱島消防出張所の緑化地では、屋根からの雨水を溜める雨水貯留タンクが設置され、近辺の緑化活動にも利用されています。また、この地域の土壌は、粘土質の層が多いとのことでした。雨水の土壌浸透を促すため、竹の節を抜いて筒状にしたものを植栽した土壌の粘土層の下まで穴を開けて通し、雨が浸透する工夫をしていました。竹の利用は、素晴らしいアイデアだと思います。これらグリーンインフラの活用を含む地域緑化はSDGsとの親和性が高いまちづくりだと感心しました。
- 地区センターや綱島地区センターガーデニングクラブの方などの参画者がしっかり確保できており、組織面が非常に優れていると思います。
- プランターを商店前に設置し、数を多く増やせていることに加え、その管理をそれぞれ設置された場所の方が担当している点は、この取組が面的に拡大するために重要なポイントだと思います。

- 個々に活動していたグループを一つにまとめ、地域全体を引っ張って行った委員長が素晴らしいです。10回を数えるオープンガーデンを行っている下地があったからでしょうか。花好きの上に行動力も素晴らしいです。
- 綱島地区地域緑化活動のすばらしさに感心しました。各種団体の活動、オープンガーデンを通しての市民との関わり、対話等が非常に良いことだと思いました。運営委員の皆様のご苦労により、市民に喜ばれる地域の花と緑のまちづくり事業をこれからも推進される事を希望します。
- 地元の方の熱意がすばらしい。消防署の協力が得られたのは大ヒットです。ぜひ、次世代に引き継がれていってほしいです。
- 市民の活動をつくり出すことができる「地域緑のまちづくり事業」はよい取組だと思う。
- 地域の自治会と商店会、また、消防署等との連携が良く、それぞれの拠点での植栽のつくり方に個性が出ていました。
- 歴史的な背景も取り入れて、これまで住まわれていた方に加え、新たに住民となる人ともみどりを介してコミュニケーションが取れることが期待できると思われました。
- 綱島の商店街周辺に、これほどに細かく緑が施されているのを見て、素敵だと感じました。
- 地域住民の方のボランティアによる維持管理ということですが、綱島地区の緑化に関心を持っている住民がこれほどに多いことに感心しました。皆さんの“緑のある明るいまちづくり”に対する意識の高さを感じます。消防署に配置されている、ポンプを模した形の貯水タンクなど、防災を視野に入れた工夫もよいと感じました。
- 水害の歴史が教訓となってまちづくりにいかされていると思います。
- 消防署とタイアップした雨水の活用設備の設置、商店街の花壇の設置推進ほか、いくつかの取組を見学、研修させていただきました。
- 他の地域でも参考になる取組事例が多々あると思い非常に参考になりました。また、その地域の歴史に関係した取組の考えにも触れ大変参考になりました。

(イ) 街路樹による良好な景観の創出・育成現場を調査

(街路樹の良好な維持管理 環状2号線 新横浜駅周辺)

環状2号線の新横浜駅周辺の街路樹が良好に維持管理されている様子を車窓から見学し、事業説明を受けました。

<委員の感想や主な意見>

- バスの窓から見る環状2号線は、多様な街路樹が並び、枝のバランスもよく表情豊かな道路だなと感じました。目安として3年に1度は、剪定作業を行い、剪定結果は記録し持続的な維持管理に利用しているとの話を聞き納得しました。
- 街路樹の剪定に対して、自然樹形を目指しつつ、道路の妨げにならないように工夫されているという説明は興味深かったです。



整備された街路樹

- イチヨウ、ユリノキは太く、大きくなるので、ゆったりした歩道でなければむり、近年はヤマボウシ、ハナミズキ、サルスベリ、クログネモチ等、高さを抑え、あまり太くならず、根も張らない樹木が植えられているが、横に根が張り、剪定が難しいのではないのでしょうか。わき芽もよく出るし、こまめに気を付ける必要があります。
- 新横浜周辺の各種高木の街路樹が良く管理されていて、まちの緑としてなくてはならないと思いました。
- 環状2号線の高木、低木も良く管理されていて、道路の景観が良かったです。
- 交通量の多い中での作業であり、業者の方も御苦労があと感じました。
- いきいき街路樹事業によって、良好な剪定がされている道路はきれいです。新横浜通りは片倉町入口まで延ばしてほしい。片倉町駅に向かう道の街路樹は手入れされていない状態で、毎日乗降して目にするたびにがっかりします。多分、市民はいきいき街路樹事業を知らないので、どうすれば美しい街並みになるかわからないのだと思います。このような事業があることをアピールして、市民から応募ができるとういと思いました。
- 自然樹形に配慮しての剪定箇所は、これまでの強剪定と歴然とした景観に差が出来ました。
- 次回の剪定の為の資料、剪定技術の養成等継続していただきたいと思います。
- これにより、従来の剪定にも好影響を及ぼしているお話をうかがいましたが、みどり税での剪定技術がアップし、通常化し、どの剪定場所も良い景観となることを期待しています。
- 見学した時に見たのはケヤキやユリノキ、プラタナスだったかと思いますが、交通路として見通しが良いようにきちんと整備されていて、過去の写真と見比べるとすっきりして良いです。
- 街路樹を広範囲に渡って維持管理するのは、古くなると倒木の危険もありなかなか目の行き届かない場所もありたいへんな仕事だと思っています。
- 特にビルが建ち並ぶまちなかの緑の確保は非常に難しいと考えます。ビル街での緑や花の確保や育成は、現代社会に於いて非常に困難な場所だと思えますが、街路樹の姿勢の取り方などを考えた取組は非常に良い方法と思いました。技術や生活の概念、社会的な生活空間の世界的考えの推移・変化がありますが、緑や花の精神的作用の影響を考えると、ビル街、繁華街、官庁街などの中心的社会的空間に緑や花の空間をいかに増やしていくか、横浜市が世界に誇れる都市になるためには、最も重要な要因の一つであると考えます。

- (ウ) 森の多様な機能に着目した森づくりの現場を調査(今井・境木市民の森)
保土ヶ谷区南部に位置する今井・境木市民の森を視察しました。



概要、維持管理方法の説明



今井・境木市民の森

<委員の感想や主な意見>

- 今井町と境木町にかかる丘陵地のこの市民の森は、市民が憩える広場もあり、見晴台からは富士山も見えました。オープン間もないこの森は、近隣の自治会町内会の協力を得て愛護会が設立されたとのこと。良好な環境が維持されていくことでしょう。
- 公園と隣接しているため、一体的な空間が形成されていて市民にとってはグリーンスペースが広く存在していて良好な場になっていると思います。一方で、利用者目線からは両者の相違はやや困惑しないかと不安もあります。
- 道路一本を挟んで、公園と市民の森で管理が異なり利用時間や条件も異なるというのも市民にとってはやや難しいですね。
- ふわふわにチップを敷き詰め、歩きやすい散歩道です。数年後に野草が茂ってくると落ち着いた見晴らし台になるのではないのでしょうか。楽しみです。
- 景色を見ながら、登山をしている様な市民の森でした。高台からの眺めも良く、森を訪れた市民の皆様も喜ばれる事と思いました。
- 愛護会の皆様も組織的に活動されているとの事、喜ばしいと思いました。
- インターチェンジ下に緑が残ってよかった。公園とセットになることで、使いやすいと思う。
- これから市民、とくに子どもたちに親しまれる催しなどが行われるとよい。
- 新規にできた市民の森で、公園との隣接が特徴でしたが、それぞれの法律での維持管理に差があるということでした。
- この森では、公園のトイレを利用できる点では良かったと思います。
- 市民の森はトイレがあるところが少ないのは法規制からかと思いますが、市民の利用、管理維持者の活動を推進するためにも設置が望まれます。
- 今年の4月にできた新しい市民の森ということですが、これから市民の方々の憩いの場となっていくことでしょう。愛護会や自治会などでイベントなどを行うなど、積極的にこの場所を活用していければ、利用者も増えてよいと思います。

- 展望広場は富士山が見えてとてもよいのですが、ゴルフ打ちっ放しのネットが景観を邪魔して少し残念です。
- 非常に良い場所で又整備されていたと考えます。管理・運営は良いように思いますが、市民への周知・PRをもっと工夫して頂き、市民の利用度を高めて行けたらと思いました。

(エ) 園児が農家に指導を受けながら農体験する取組(本宿農園)

旭区若葉台に位置する環境学習農園の現場を見学しました。隣接する幼稚園の園長であり農家の方から、普段活動されている農園で説明を受けたほか、写真を交えて活動内容について説明を受けました。



環境学習農園の視察



写真による活動の説明

<委員の感想や主な意見>

- 園長先生の話では、「園児の様子を見ると収穫体験のみよりは、種まきから収穫まで体験できると喜びも増す。収穫された野菜は園児宅に持ち帰り食べてもらっている。自然と食育につながる。」とのことでした。この取組は、学習効果も大きいことが分かります。幼稚園のとなりが農園と恵まれた環境ですが、園長先生と職員の熱意、連作の回避や追肥など農家さんのサポートで良好な環境学習農園が実現できていることが分かりました。
- よく整備されている農園だと感心しました。幼稚園からの距離が近いので、日常的に子どもたちが農作業に関わることができるものと思います。「食育」とは少し異なる「農育」の姿を見せていただいたように思います。
- 園児 80 名、3歳から5歳と言う何にでも興味を持ち、野菜に触り、やってみたい子ども達の安全に気をつけながらいろいろ経験をさせる為に頑張っている園長先生に頭が下がります。子ども達は幸せです。
- 体験農園として子ども達が土にふれ、野菜に触る等して収穫の喜びなど、食育として情操教育として、将来大人になっても忘れぬ思い出になる事と思います。
みどりアップ事業としても、今後も次世代を担う子ども達の為にも応援出来たら良いと思いました。

- 園に隣接していることが良い。小学校の学習では一学期に数回、訪れるだけになってしまふのに比べて、作物が育つ過程がわかる。
- 雑草とりをはじめ、農園の管理には大きな労力がかかっていると思う。ボランティアなど、多くの人に関わるとよいと思う。
- 園長先生はじめ、職員の方が熱心に手入れをされ、子どもたちへ自由な形で種まきから見守り、また収穫にまで折々に時間を決めずに触れあわせているところが素晴らしいと思いました。
農家の方にも応援をお願いしているとのことでしたが、園長先生のご要望が適切な施肥等についての指導と伺いました。維持管理者の声を聞き、サポート・配慮する必要があると思いました。
- 園児が収穫した野菜を持って帰って家で食べられるということですが、自分の手で収穫した野菜はより美味しく、野菜を食べるきっかけにもなりとてもいい食育になっていると思います。
- 「市民が利用できる農園の仕組み」が様々なケースがあることを知りましたが、それぞれのニーズに合わせて、うまく利用できると思います。
- 多くの面で、幼少期からの教育に関して緑や花、農産物等に触れ見聞きして行く事は大変大事なことと思います。小学校等でも実施していますが、多くの教育現場等で色々な取組を行っていくことは大事だと思います。

4 横浜みどりアップ計画 4か年の評価・提案

市民推進会議では、横浜みどりアップ計画の「市民とともに次世代につなぐ森を育む(「森を育む」)」、「市民が身近に農を感じる場をつくる(「農を感じる」)」、「市民が実感できる緑や花をつくる(「緑をつくる」)」の施策と、横浜みどりアップ計画を市民の皆さまに周知するための「広報・PR」について、現地調査で活動団体などからいただいた意見も踏まえて、評価・提案を行いました。

なお、横浜みどりアップ計画で進めている事業・取組には、横浜みどり税の導入時に定めた用途に沿って横浜みどり税を充当している事業・取組と、横浜みどり税を充当せずに進めている事業・取組がありますが、市民推進会議では市民の皆さまが負担している横浜みどり税を充当している事業・取組を中心に評価・提案を行いました。

◆計画の体系

●：横浜みどり税を充当している事業・取組



◆各計画の柱のハイライト

2022 年度の実施状況について、これまでの実施状況とあわせて振り返ります。

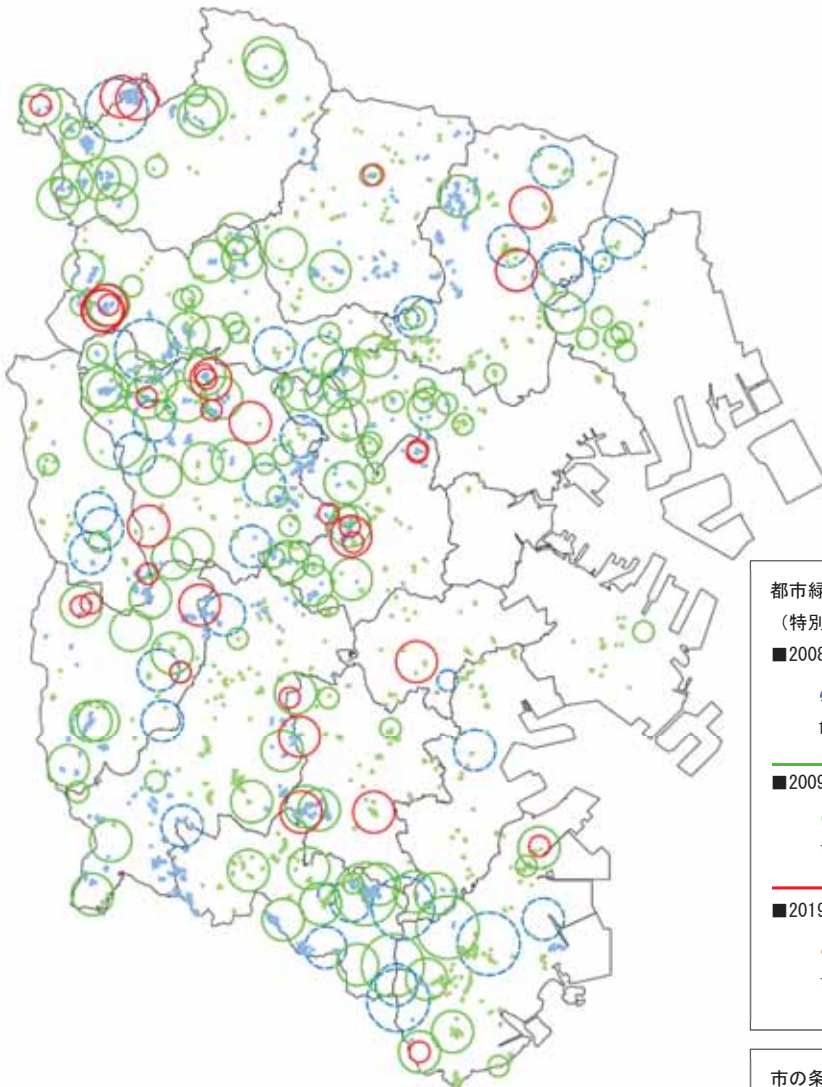


計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

緑地保全制度による指定の拡大が進んでいます

特別緑地保全地区などの緑地保全制度による指定は、緑のネットワークの核となるまとまりのある樹林地を中心に土地所有者へ働きかけを行い、2009 年度から 2022 年度の 14 年間で約 1,049.8ha、2022 年度は 36.8ha 指定されました。

<緑地保全制度による指定の状況>



都市緑地法、首都圏近郊緑地保全法に基づく指定地区
(特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区)

■2008 年度以前指定地区



■2009～2018 年度指定地区



みどりアップ
期間中の指定

■2019 年～2022 年度指定地区



本報告書で
評価対象と
なる実績

市の条例に基づく指定地区

- 緑地保存地区
(市街化区域の身近な樹林地を保全する制度)
- 源流の森保存地区
(市街化調整区域の良好な樹林地を保全する制度)

2023 年 3 月末現在



計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

農園の開設が進んでいます

野菜の収穫や果実のもぎとりなどを気軽に体験できる収穫体験農園、区画割りされた農園で本格的な農作業が出来る認定市民菜園や農園付公園など、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設が進んでいます。



<農園の開設状況>

(2009年度から2022年度の14年間)



★収穫体験農園



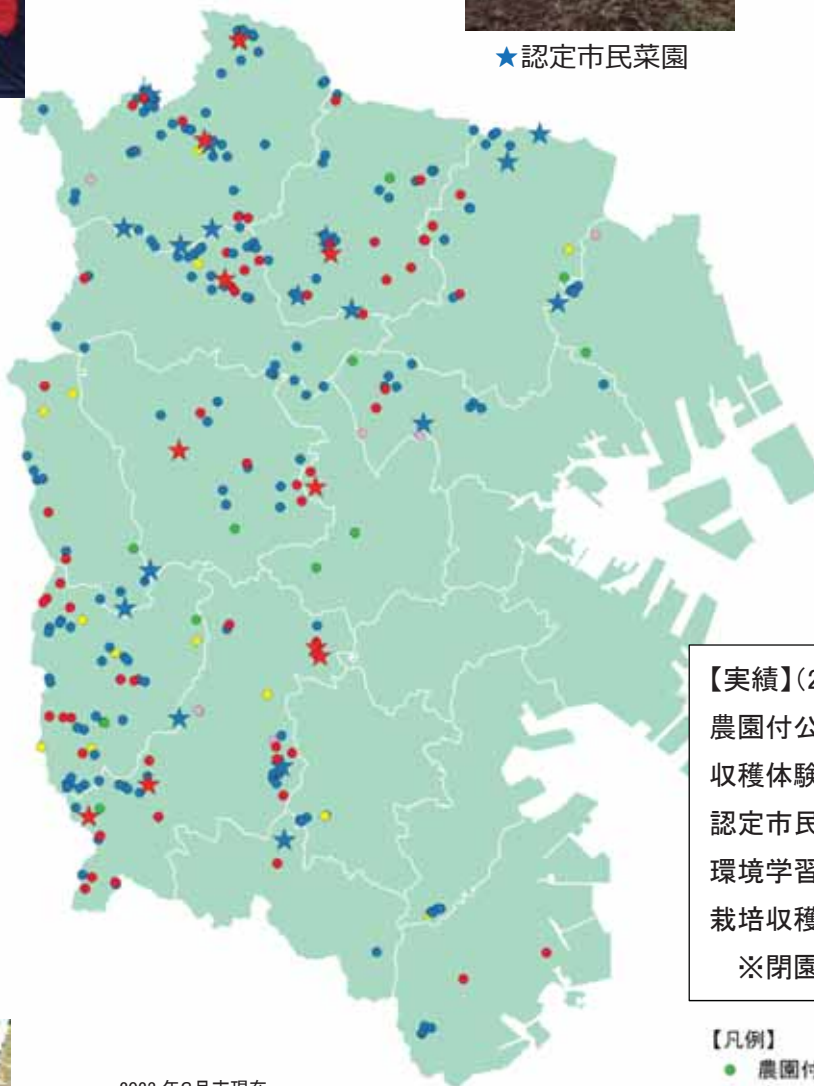
★認定市民菜園



★収穫体験農園



★収穫体験農園



★認定市民菜園



★収穫体験農園

【実績】(2009～2022年度)

- 農園付公園 11か所
- 収穫体験農園 72か所
- 認定市民菜園 211か所
- 環境学習農園 16か所
- 栽培収穫体験ファーム 7か所
- ※閉園含む

【凡例】

- 農園付公園
- 収穫体験農園
- 認定市民菜園
- 環境学習農園
- 栽培収穫体験ファーム
- ★ R4収穫体験農園
- ★ R4認定市民菜園



★収穫体験農園

2023年3月末現在



計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

緑のまちづくりが進んでいます

市内各地で様々な緑をつくる自主的な活動が行われ、2009年度から2021年度の13年間で市内62地区において、魅力ある緑のまちづくりが進んでいます。2022年度は新たに5地区で市と協定を締結、2023年度から緑化に取り組めます。



<地域緑のまちづくり実施地区一覧>



綱島西地区(港北区)



磯子3丁目地区(磯子区)

※横浜みどりアップ計画の詳細な実績については、「4か年(2019年度～2022年度)の事業・取組の評価・検証」をご覧ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/midoriup/jigyhoukou.html>

◆評価・提案の概要

「計画の柱1:市民とともに次世代につなぐ森を育む」については、土地所有者への働きかけが難しい状況が続く中、関係者を対象とした説明会を実施するなど、工夫しながら粘り強い働きかけを続けたことを評価します。

維持管理助成は土地所有者が樹林地を安心して持ち続けることにつながる取組であり、より一層の制度の拡充を期待します。

樹林地の良好な管理において、愛護会や森づくりボランティア等の市民と連携して進めることは重要であり、引き続き、市民との協働による良好な森の育成の取組を進めていくことを期待します。

コロナ禍によりイベントの実施が難しい状況において、オンライン等、開催方法を工夫しながらイベントを実施したことを評価します。

森を訪れる市民が増えた一方、利用マナーが新たな課題となっています。「横浜の森ファン」を増やすことは、市民に森との関わり方を知っていただくためにも重要であるため、引き続き、様々な発信の方法を検討しながら、子どもをはじめ、多くの市民に森の楽しみを伝えていくことを期待します。

「計画の柱2:市民が身近に農を感じる場をつくる」については、水田保全の取組により市内の水田面積の約9割が保全されていることを高く評価しますが、今後は担い手の高齢化などの課題に対応する仕組みなど、水田景観が末永く維持管理できる方法を検討してください。また、きれいに管理された農地は、市民が農に親しむ場であり、良好な農景観を形成することで都市の魅力ともなる重要な場であり、遊休農地の利用促進に向けての一層の支援を期待します。農とふれあう場づくりでは、今後は、身近な場所に農地の少ない地域でも農とふれあうことができるようになることを期待します。横浜の市民力を生かし、身近な場所で農を楽しみながら農を支援する取組をさらに進めてください。

多様な地産地消の市民ニーズに応えるために、はまふうどコンシェルジュ同士や、地域の拠点となる地産地消サポート店などが相互に連携を深めることで、地域に密着した地産地消の取組が増えることを期待します。また子どもから高齢者まで、あらゆる世代で地産地消が展開されるよう、新しいニーズに応じた支援を期待します。

「計画の柱3:市民が実感できる緑や花をつくる」については、公有地・公共施設での緑化や、公有地によるシンボリックな緑の創出など、多くの市民の目にふれる場所での緑の創出・育成が進んでいます。また、保育園・幼稚園・小学校などでは、子どもたちが身近に緑に親しむ空間づくりが広がり、緑や花、生き物とふれあう体験につながっています。

緑や花に親しむ取組では、地域緑のまちづくりをはじめ、地域活動による緑の取組が着実に広がっています。また、各区で市民・企業等と連携した様々な取組が進められ、緑や花への関心や市民参加が全市的に広がっており、緑あふれる魅力的なまちづ

くりに欠かせない市民力が育まれています。

横浜で開催される 2027 年国際園芸博覧会を、市民力をいかした横浜ならではの緑や花の取組を示す機会と捉えながら、これまでの成果や課題を踏まえ、緑や花の取組が今後も充実・発展されていくことを期待しています。

「効果的な広報の展開」については、広報よこはまへの記事掲載や子ども向けの広報紙など、市民に情報を届けるための様々なツールを活用した広報を継続してください。

Twitter による情報発信の回数も多く、話題も多種多様であり、繰り返し広報することは認知度向上に効果的と考えますので、引き続き取り組むことを期待します。

また、計画を知っている割合は前年度から伸びており、これまでの広報の効果を感じられます。市民の関心が高い地産地消や農の取組にスポットをあてた広報や様々な年代にあわせた広報に取り組むことで更なる認知度向上を期待します。

みどりアップ計画の広報の事例や実績は積みあがってきており、今後は、2027 年国際園芸博覧会関連イベントなどを利用し、市内外に向けた広報も検討してください。

(1)計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

森(樹林地)の多様な機能や役割に配慮しながら、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承します。

施策1 樹林地の確実な保全の推進

事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

みどり税

●事業概要(計画書から抜粋)

市内に残る樹林地の多くは民有地であり、まとまりのある樹林地を保全して次世代に引き継ぐためには、土地を所有する方が、できるだけ持ち続けられるよう支援する必要があります。そこで、緑地保全制度に基づく指定により土地所有者へ優遇措置を講じることで、樹林地を保全します。

また、土地所有者の不測の事態等による、樹林地の買入れ申し出に対応します。

●実績

項目	2022年度		4か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り				
緑地保全制度による新規指定	60ha	36.8ha	144.8ha	300ha
土地所有者の不測の事態等による土地の買取り	(想定)22.5ha	9.3ha	67ha	(想定)113ha
保全した樹林地の整備	推進	85か所	312か所	推進



特別緑地保全地区に新規指定された緑地
(港南区 日野中央特別緑地保全地区)



緑地保全制度により買入れた緑地
(旭区 川井本町特別緑地保全地区)

市担当者からのコメント(環境創造局緑地保全推進課)

- ・ 特別緑地保全地区をはじめとした各種制度の指定の実現には、土地所有者の方々に直接お目にかかり、制度の趣旨やメリット等を説明し、ご納得いただくことから始まります。しかしながら長引くコロナ禍の影響が指定実績にも及んでいます。そのような状況で、指定面積は、2019 年度 47.2ha、2020 年度 28.9ha、2021 年度 31.9ha、2022 年度 36.8ha、4か年合計では 144. 8ha と目標を下回っています。
- ・ 2022 年度は、年度末時点での指定面積は山林所有者から相談を受けている横浜農業協同組合職員を対象とした説明会の実施等、制度周知の働きかけにより前年度を上回る結果となりました。また、2022 年度までの4年間に新規指定した緑地1か所あたりの面積は 0.54ha と、前期みどりアップ計画期間(2014～2018 年度)の 0.72ha に比べ、小規模化しています。
- ・ 都市計画により永続的に緑地を保全する特別緑地保全地区(近郊緑地特別緑地保全地区を含む)は、4年間で新規に 13 か所を指定し、23 か所を拡張しました。2022 年度は、新規に4か所を指定し、3か所を拡張しました。
- ・ 一方、樹林地の買取りが進み市の管理地が増えるなか、特別緑地保全地区等の新たな指定にあたっては、傾斜地など地形の状況や接道などの周辺状況を踏まえ、適切な整備や維持管理が行える区域とすることが必要です。また、樹林地の指定が進むなか、以前は指定の意向がなかった土地所有者への再度の働きかけが増えており、指定にあたっての調整や課題の検討には時間を要しますが、今後もまとまりのある貴重な樹林地を保全するため、粘り強く事業を進めていきます。

◆施策1についての評価・提案

- ・ 横浜みどりアップ計画[2019-2023]が開始してからの4年間は、コロナ禍により土地所有者の方々に直接お話することができない状況が長く続く中で、指定の意向のなかった土地所有者への働きかけを再度行うなど、粘り強く働きかけを続け、2021 年度以降は 2020 年度を上回る成果を上げていることを評価します。
- ・ 土地所有者とつながりのある団体からも制度周知に協力を得られるよう、緑地保全制度の説明会を行ったことは制度の周知に効果があると考えられますので、引き続き様々な場面において、制度の理解浸透を図ってください。
緑地が小規模化し、成果を上げることが難しい状況ではありますが、引き続き、工夫しながら粘り強い働きかけを行ってください。
- ・ 特別緑地保全地区等の指定にあたり、維持管理まで考えた区域の指定や樹林地の役割を効果的に発揮するためのまとまりをつくる樹林地の指定は重要です。
保全した樹林地の価値をより多くの市民が共有し、次世代に引き継げるよう、まとまりのある貴重な樹林地の保全を進めるとともに、管理や活用についても検討しながら保全の取組を進めていくことに期待します。

施策2 良好な森を育成する取組の推進

事業② 良好な森の育成

みどり税

●事業概要(計画書から抜粋)

生物多様性の保全、快適性の確保、良好な景観形成、防災・減災など、森に期待される多様な機能が発揮できるように、利用者や樹林地周辺の安全にも配慮し、愛護会や森づくりボランティア、企業等様々な主体と連携しながら、良好な森づくりを進めます。

また、樹林地を所有する方が、できるだけ樹林地として持ち続けられるよう、緑地保全制度による指定地における維持管理の負担を軽減するための支援を行います。

●実績

項目	2022年度		4か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 森の多様な機能に着目した森づくりの推進				
森の維持管理	推進	保安全管理計画の策定:0か所 維持管理:210か所	保安全管理計画の策定:14か所 維持管理:786か所	推進
取組(2) 指定した樹林地における維持管理の支援				
維持管理の助成	100件	111件	525件	500件



宮沢ふれあいの樹林(瀬谷区)



中田宮の台市民の森(泉区)

森づくりガイドライン等を活用した維持管理



作業前



作業後

維持管理の助成(旭区)

●事業概要(計画書から抜粋)

市民や事業者と市の協働により森を育む取組を進めるため、森づくり活動に取り組む市民や団体を対象に、活動のための知識や技術に関する研修を実施し、森を育む「人」を育てます。また、森づくり活動を行う団体を対象に、活動に必要な支援を行います。

●実績

項目	2022 年度		4か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 森づくりを担う人材の育成				
森づくりを担う人材の育成	推進	研修の実施:13回 体験会の開催:10回	研修の実施:51回 体験会の開催:34回	推進
広報誌等での森づくり活動に関する情報発信	4回	4回	16回	20回
取組(2) 森づくり活動団体への支援				
森づくり活動団体への支援	30 団体	33 団体	132 団体	150 団体
森づくり活動団体への専門家派遣	4回	4回	16回	20回
チップターの貸出し	推進	8か所	36 か所	推進



森づくりを担う人材育成
森づくり体験会(継続編)の様子
(上川井市民の森)



森づくりを担う人材育成
森づくり体験会(初級編)の様子
(池辺市民の森)



森づくりを担う人材育成
間伐材マネジメント研修
(環境活動支援センター)



森づくりを担う人材育成
アドバイザー派遣
(長津田宿市民の森愛護会)

市担当者からのコメント(環境創造局みどりアップ推進課)

- 樹林地管理においては、特に樹林地外周部の斜面で、災害予防を目的とした剪定や伐採などを行いました。その意義や効果については、多くの方々にご理解をいただけるようになってきたと感じています。市民の森やまとまった樹林のある公園等のうち、保全管理計画を必要とする樹林地においては策定が進みました。保全管理計画に基づき計画的な管理を、愛護会とも連携しながら進め、多様な環境が形成され多くの生き物が確認でき、樹林地外周部の斜面では豪雨時の土砂流出が抑制されました。今後も作業成果の検証を行い、作業計画を適宜更新しながら、生物多様性や安全性など森の機能を高める管理を着実に進めていきたいと考えています。
- 樹林地維持管理助成事業は4年間実績で目標を上回っています。樹林地の安全で良好な維持管理のため、また、台風被害を軽減するためにも、今後も計画的な維持管理に助成制度の活用をご案内していきます。
- 現行計画の開始と同時に始まった「森づくり体験会」ですが、コロナ禍の影響を受けてやむを得ず中止することもあったものの、その後は感染症対策を徹底して実施してきました。当初は、主に森づくりに関心を持った初心者の方を対象とした体験会でしたが、徐々にリピーターも増え、2021年度からはこれまで複数回体験会に参加した方を対象に、同じ森で年に4回、季節を変えて林床整理や常緑樹(実生木(みしょうぼく))除伐などを実施することで、スキルの向上と同時に、森の変化も感じることができる「継続編」も始まりました。「継続編」の参加者の中には、今後のご自身の森づくり活動について考えてくださっている方もおり、事業の成果として確かな手応えを感じています。
- 「よこはまの森ニュースレター」では研修や支援制度の紹介、愛護会や森づくり活動団体の活動紹介のほか、森づくり活動に必要な安全管理の知識や、森づくり体験会を実施した樹林地の林床にどんな変化がもたらされたのかなどの情報提供を行っています。森づくり活動団体やボランティアの皆さんの活動内容や楽しみの幅が広がるような記事を掲載していきたいと考えています。

◆施策2についての評価・提案

- ・ 樹林地管理において、行政と愛護会等の市民とで役割分担しながら連携するために重要な保全管理計画の策定が進んでいることを評価します。引き続き、愛護会等と連携して保全管理計画に基づく計画的な管理を進めるとともに、作業計画の更新や安全に作業を行うためのフォローを実施することで、さらに良好な森の育成が進んでいくことを期待しています。
また、将来的な取組として、樹林地の維持管理に伴う発生材を有効活用する取組について検討することを期待します。
- ・ 樹林地維持管理助成事業については、4年間で目標を上回る実績があることから、日頃から樹林地の維持に負担を感じている土地所有者にとって期待の大きな取組といえます。気象災害やナラ枯れ等による想定外の被害が生じる中、当該事業は土地所有者が安心して樹林地を持ち続けることにつながっています。引き続きより多くの土地所有者が制度を利用できるよう、ニーズを捉えたさらなる事業の充実を期待します。
- ・ 森づくり体験会は、市民が森づくりに関わるきっかけとして意義のある取組といえ、「継続編」の実施等、新たな取組を進めていることを評価します。より多くの市民が森づくりに関わるきっかけとなるよう、引き続き取組を進めるとともに、幅広い世代のニーズに合わせたメニューの検討を進めるとともに、森づくりボランティアと愛護会の連携につながる取組についても検討してください。
- ・ 「よこはまの森ニュースレター」では、森づくりに関する制度の紹介から技術や知識等、必要な情報を幅広く提供していることを評価します。引き続き、楽しみながら森づくりを行うことができるよう、事業を進めてください。

施策3 森と市民をつなげる取組の推進

事業④ 市民が森に関わるきっかけづくり

みどり税

●事業概要(計画書から抜粋)

横浜の森について理解を深め、さらには行動につなげるため、森に関するイベントや講座の開催により、市民が森に関わるきっかけを提供します。また、市内5か所にあるウェルカムセンターの活用などにより、情報発信等に取り組みます。

●実績

項目	2022年度		4か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 森の楽しみづくり				
市内大学や関係団体などと連携したイベントや、区主催による地域の森でのイベントの実施	36回	98回	249回	180回
取組(2) 森に関する情報発信				
ウェルカムセンター周辺の緑を活用したイベント等	10回	11回	37回	50回

2022年度 ～森の楽しみづくり イベントの内容～

- ・よこはま森の楽校
- ・森の中のプレイパーク
- ・クラフト教室
- ・自然教室(昆虫観察会) など



よこはま森の楽校の様子
(緑区東洋英和女学院大学)



森の中のプレイパークの様子
(瀬谷区本郷三丁目公園、瀬谷図書館)



森の伝え手講座 について

市内に残るみどりの大切さを広く知っていただくため、横浜の森の魅力や役割を、単なる情報提供だけではなく、直接体験や教材を通して、効果的に伝える技術や知識を学ぶ講座です。



森の伝え手講座の様子



ウェルカムセンターイベント
「旬の里山探訪」の様子
(緑区にいはる里山交流センター)

市担当者からのコメント(環境創造局みどりアップ推進課)

- 森の楽しみづくりとして、市内各地にある樹林地や緑を活用した自然観察イベント等を実施しました。森の楽校のキャンパスイベント及び市内小学生を対象に図書館及び公園で実施したイベント(森の中のプレイパーク)は、令和3年度は感染状況を考慮してイベントの中止やオンラインでの開催などの対応を行っていましたが、令和4年度は感染対策を徹底しながら、全てのイベントについて中止することなく対面での開催ができました。
- コロナ禍での生活様式の変化から、憩いの場としての市民の樹林地に対する関心は高まっており、これまで関心の無かった方にも樹林地を訪れてもらう機会が増えました。この機会を捉えて、森の楽しみ方を伝え、「横浜の森ファン」を増やすことで、利用マナーや、みどりアップ計画への理解や協力を得ていきたいと考えています。
- しかしながら、感染症の拡大状況によっては、準備を進めたイベントであっても中止の判断をせざるを得ない場面もあり、3年前とはイベントを取り巻く状況は様変わりしています。森の魅力については、現場での体験があつてこそ実感できると思いますが、身近な森に気付いてもらえるような、響く情報発信が何かを考えていかなければならないと思います。

◆施策3についての評価・提案

- コロナ禍によりイベントの開催が難しい状況が続く中、オンラインでのイベント開催等、新たな開催方法を検討し実施してきたこと、また、森の魅力を感じるためには実際に森での体験が重要であり、令和4年度は全てのイベントを対面で開催したことを評価します。
引き続き、森の魅力伝える取組を進めるとともに、これまで工夫しながら実施してきた方法でのイベント開催のノウハウを活かし、より多くの市民が森に関わり、森の楽しみを知るきっかけとなる様々な取組を進めてください。
また、森での体験は子どもにとっても貴重な経験となるため、引き続き、子どもにむけた森の魅力伝える取組に期待します。
- コロナ禍により、森への関心が高まり、森を訪れる市民が増える一方で、利用マナーが守られないといった課題も発生しています。子どもたちに利用マナーを伝えることが、その親、ひいては利用者にも広がると考えられます。まずは子どもたちに分かりやすい伝え方を検討するとともに、ウェルカムセンターや地域等とも連携し、森との関わり方について広く情報発信する取組を引き続き進めてください。
- 「横浜の森ファン」を増やすための取組は、市民に森との関わり方を知っていただくことや、みどりアップ計画を理解していただくためにも重要です。
引き続き、これまでの方法に加えて新たな情報発信の方法を検討し、効果的に森の楽しみについて伝えていくことを期待します。

「森を育む」施策を検討する部会 部会長コメント

横浜みどりアップ計画の第3期[2019-2023]が最終年までできました。第3期の「森を育む」施策を検討する部会において実感するのは、各種の緑地保全制度による指定の拡大、横浜市による買取りの保証によって森の保全活動が定着してきたことです。同時に、これらの森を育むための人材育成や森づくり活動団体への支援も着実に実行されています。緑の保全は、市民と行政による長い時間がかかる取組ですが、多くの市民の共感を得ています。また、コロナ禍で市民による森の楽しむ機会も増加しています。

横浜みどりアップ計画の第3期[2019-2023]において、横浜のみどりアップ計画が絶えることなく実行されていることを高く評価すると同時に、次世代にこの活動をどのように継承してゆくかが今後の大きな課題です。

望月 正光



(2) 計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

良好な景観形成や生物多様性の保全など、農地が持つ環境面での機能や役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

施策1 農に親しむ取組の推進

事業① 良好な農景観の保全

みどり税

●事業概要(計画書から抜粋)

農地は良好な農景観の形成や生物多様性の保全、雨水の貯留・かん養機能など多様な機能を有しており、横浜に残る農地や農業がつくりだす「農」の景観は多様です。農業専用地区に代表される、集団的な農地から構成される広がりのある景観や、樹林地と田や畑が一体となった谷戸景観などが、地域の農景観として多くの市民に親しまれてきました。この農景観を次世代に継承するため、横浜に残る貴重な水田景観を保全する取組や、意欲ある農家や法人などにより農地を維持する取組を支援します。

●実績

項目	2022年度		4か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 水田の保全				
水田保全面積	125ha	111.9ha	111.9ha	125ha
水源・水路の確保	2か所	3か所	10か所	10か所
取組(2) 特定農業用施設保全契約の締結				
特定農業用施設保全契約の締結	制度運用	34件	109件	制度運用
取組(3) 農景観を良好に維持する活動の支援				
まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援	集団農地維持面積	705ha	674.0ha	730ha
	農地縁辺部への植栽	11件	18件	66件
	井戸の改修	1地区	2地区	10地区
	土砂流出防止対策	3件	2件	13件
周辺環境に配慮した活動への支援	牧草等による環境対策	4ha	4.83ha	20ha
	たい肥化設備等の支援	5件	0件	25件
取組(4) 多様な主体による農地の利用促進				
遊休農地の復元支援	0.3ha	0.44ha	1.82ha	1.5ha



保全された水田(緑区北八朔町)



水田の用水路の修繕(泉区和泉町)



土砂流出防止対策を実施した農地
(都筑区池辺町)



まとまりのある農地への景観植物の管理
(都筑区折本町)



●事業概要(計画書から抜粋)

食と農への関心や、農とのふれあいを求める市民の声の高まりに応えるため、収穫体験から本格的な農作業まで、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設や整備を市内各地で進めます。

また、市民と農との交流拠点である横浜ふるさと村や恵みの里を中心に、市民が農とふれあう機会の提供や、農家への援農活動を支援します。

●実績

項目	2022 年度		4か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設				
様々な市民ニーズに合わせた農園の開設	3.5ha	5ha	17.5ha	22.8ha
うち 収穫体験農園の開設支援	1.5ha	3.35ha	12.27ha	7.5ha
うち 市民農園の開設支援(栽培収穫体験ファーム・環境学習農園・認定市民菜園)	2.00ha	1.65ha	4.68ha	10ha
うち 農園付公園の整備	0ha	0ha (整備中 4.4ha)	0.55ha (整備中 4.4ha)	5.3ha
取組(2) 市民が農を楽しみ支援する取組の推進				
横浜ふるさと村、恵みの里等で農体験教室などの実施	90回	94回	321回	450回
市民農業大学講座の開催(1年次の講座回数)	20回	35回	75回	100回
家族で学ぶ農体験講座の開催	6回	6回	23回	30回



開設支援した収穫体験農園
(戸塚区汲沢町)



開設支援した認定市民菜園
(青葉区田奈町)



恵みの里の農体験教室
(緑区新治町)



家族で学ぶ農体験講座
(保土ヶ谷区環境活動支援センター)

市担当者からのコメント(環境創造局農政推進課・みどりアップ推進課・環境活動支援センター)

- 水田保全に関する事業では、市内の水田面積の約9割の申し出をいただいております。土地所有者からは水田を持ち続けるうえで負担が軽減され助かっている、という声を聞きます。一方で、高齢化等により、水田耕作をやめてしまう方もおり、これまでの支援に加えて、水田の維持管理への支援が必要だと感じています。なお、水稻を作付していながら申し出いただいていない土地所有者に対して、個別に事業の趣旨を説明するなど粘り強く働きかけ、2022年度は新規に1.2haを保全することができました。
- 市民農園の事業では、コロナ禍において農園の利用に関する問い合わせが増加したことから、市民農園の位置を示した地図情報(市民農園マップ)を横浜市ホームページで公開し、農園利用希望者は自宅近くの市民農園をインターネットで探せるようにしました。
- 農園付公園は、元々農地であった土地を都市公園とすることから、開設するためには道路や給排水設備等のインフラの整備が必要となります。現在整備中の農園付公園は、インフラ整備に関する関係機関協議や地元調整において困難なものが多く、時間を要しています。できるだけ早く開設できるよう、引き続き取り組みます。
- ふるさと村や恵みの里で実施を予定していた農体験イベントは、新型コロナウイルス感染症の影響で2020年度はその多くが中止されましたが、2021年度以降は感染症対策を取りながら開催しています。さらに2022年度は複数の地区で新規の収穫体験イベントが開催され、市民の方に農とふれあっていただく機会を増やすことができました。
- コロナ禍の中、恵みの里が実施する収穫体験などのイベントに対して、例年を上回る申込みがあったことや、市民農園の利用に関する問合せの増加など、生活様式の変化に伴い、横浜の農業への関心や農体験のニーズが高まり続けていることを実感しています。
- 家族で学ぶ農体験講座では、小学生が家族と一緒に作物の植え付けから収穫までの様々な農作業を体験するなど、楽しみながら農と触れ合う機会を提供しました。前後半の2部制で実施し、時間差を設けて参加者を入れ替え、畑でのスペースを広く確保するなど感染症の対策を行いながら、種まきから収穫に至るまでの取組を進めました。参加者からは「子どもが以前より野菜に興味を持った。食わず嫌いがなくなり、積極的に自ら食べるようになった」、「野菜や農業のことが分かった」などの感想がありました。
- 市民農業大学講座は令和4年度に内容の見直しを行い、これまで野菜・果樹と花・植木の2コースに分けて開催していたものを統合し、野菜・果樹・花・植木の作業の基礎を総合的に学習する1コースの講座として開催しました。受講生からは「幅広い分野を学習することができて良かった」「最初は野菜にしか興味がなかったが、ほかの分野も楽しく学習することができた」などの感想がありました。コースを統合したことで、講座生が幅広い分野の知識・技術を習得できており、講座修了後の援農や緑化ボランティア活動のさらなる展開が期待できます。

施策1についての評価・提案

- 水田保全の取組については、粘り強い働きかけの結果、市内の水田面積の約9割が保全されていることを高く評価します。さらに今後は担い手の高齢化などの課題に対応する仕組みなど、水田景観が末永く維持管理できる方法を検討してください。
- きれいに管理された農地は、市民が農に親しむ場であり、良好な農景観を形成することで都市の魅力ともなる重要な場です。引き続き、地域の皆様が協力し取組を進められるよう、支援を継続してください。また、遊休農地の利用促進に向けての一層の支援を期待します。
- 増加する市民農園の問合せに迅速に対応するため、インターネットで情報提供を開始したことを評価します。今後は、身近な場所に農地の少ない地域でも農とふれあうことができるようになることを期待します。
- 農園付公園は、用地取得や整備に時間がかかるものの、整備後の利用ニーズがあるため、継続した取組を期待します。
- 市民が農を楽しむ支援する取組の推進については、感染症対策を取りながら様々な体験を実施されていることを評価します。特に子どもの農体験は、食育や環境学習の面においても、かけがえのない経験となります。引き続き、環境学習農園や農体験講座など内容等の工夫を望みます。
- 市民農業大学講座は、受講生が多様な知識・技術を身に付けられるよう、内容を見直す工夫をしたことを評価します。修了生が幅広く活躍され、農作業の手伝いだけでなく、みどりの助っ人となることを期待します。
- 横浜の市民力を生かし、身近な場所で農を楽しみながら農を支援する取組をさらに進めてください。

施策2 地産地消の推進

事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進

●事業概要(計画書から抜粋)

身近に市内産農畜産物や加工品を買える場や機会があることへの市民ニーズは高く、地域で生産されたものを地域で消費する地産地消の取組は、身近に農を感じ、横浜の農への理解を深めるきっかけにもなります。

そこで、「横浜農場[※]の展開」による地産地消を推進するため、地域でとれた農畜産物などを販売する直売所等の整備・運営支援や、市内で生産される苗木や花苗を配布するなどの取組を進めます。あわせて、地産地消に関わる情報の発信など、PR活動を推進します。

※横浜農場:食や農に関わる多様な人たち、農畜産物、農景観など、横浜らしい農業全体を農場と見立てた言葉

●実績

項目	2022 年度		4か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1)地産地消にふれる機会の拡大				
直売所・青空市等の支援	57 件	63 件	196 件	285 件
緑化用苗木の配布	25,000 本	25,574 本	98,806 本	125,000 本
情報誌などの発行	6回	6回	24 回	30 回



野菜の自動販売機(青葉区)



横浜農場公式Instagram



緑化用苗木の配布(中区)



はまふうどナビ第61号

事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開

●事業概要(計画書から抜粋)

市内産農畜産物を食材として活用し、加工販売したいと考える企業や、横浜の農業の魅力伝える活動を行う野菜ソムリエや料理人などが増え、市民や企業、学校など農業関係者以外の主体が地産地消の取組を実施する活動が広がっています。この動きをさらに拡大するため、市民の「食」と、農地や農畜産物といった「農」をつなぐ「はまふうどコンシェルジュ」などの地産地消に関わる人材の育成やネットワークの強化を図り、「農のプラットフォーム」を充実するとともに、農と市民・企業等が連携した「横浜農場の展開」を推進します。

●実績

項目	2022年度		4か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1)地産地消を広げる人材の育成				
はまふうどコンシェルジュの活動支援等	30件	36件	123件	150件
地産地消ネットワーク交流会の開催	1回	1回	4回	5回
取組(2)市民や企業等との連携				
市民や企業等との連携	10件	15件	56件	50件
ビジネス創出支援	4件	6件	14件	16件
学校給食での市内産農産物の一斉供給	推進	316校	1,270校	推進
料理コンクールの開催	1回	1回	4回	5回



はまふうどコンシェルジュ活動支援
(農作業体験の開催)



地産地消ネットワーク交流会の開催
(食と農のフォーラム)



企業等との連携による地産地消の推進
(神奈川大学経営学部の学生と協力した地産地消のPR)



はま菜ちゃん料理コンクール
入選作品

市担当者からのコメント(環境創造局農業振興課)

- 直売所等の支援として、自動販売機や選別機、冷蔵ショーケースの導入等に補助を行いました。また、市民ニーズに応えるため、感染症対策を取りながら、市内各地で青空市やマルシェを開催している団体等にのぼりや横断幕、プライスカードやエプロン等の PR 資材を配付しました。より多くの市民が身近に地産地消を暮らしの中に取り入れてもらえるよう、こうした青空市やマルシェを継続的に支援し、PRしていくことが必要だと思います。
- 令和4年度は、横浜農場 Instagram 公式アカウントでのキャンペーンや市庁舎でイベント「横浜農場 食と農のマルシェ」を開催するなど、市民に向けて地産地消の PR を積極的に実施しました。Instagram アカウントはフォロワー数が 3,000 を超え、イベントでも完売する店舗が出るなど、市民の「地産地消」への関心の高さを感じました。また、はまふうどコンシェルジュやよこはま地産地消サポート店などと連携し、市内のマルシェや飲食店等でエコバッグのプレゼントキャンペーンを実施しました。今後はサポート店への支援の充実を図るなど、地産地消に関わる様々な方々と協力した取組を進めていきます。
- 横浜 FC と連携した地産地消イベントの実施など、企業等と連携した継続的な取組に加え、神奈川大学経営学部の授業の一環で学生が企画した地産地消のPRを行うなど、新たな取組も実施しました。学生と協力した取組は、授業やアルバイト等で時間のない学生とのやり取りで大変な面もありましたが、学生は PC・スマートフォンを活用する能力が非常に高く、打合せ等もオンラインかつペーパーレスな進め方を基本としていて、とても勉強になりました。農家からも「若い世代とのやり取りで活気をもらった。」と好評で、学生からも「農家や飲食店と関わることで、横浜は本当に素晴らしい街だと再認識できた。そんな横浜に住んでいることが誇りに思えるようになった。」という嬉しい感想をいただきました。
- 市内産農産物に対する理解と学校給食への関心を高めるため、小学生を対象に野菜と果物を使った新しい学校給食のメニューを提案する「はま菜ちゃん料理コンクール」を開催しています。今年は 2,207 点もの作品がエントリーされ、多くの児童が興味関心を抱いていると実感しています。また、今年で開催 20 周年を迎えることを記念して、入賞6作品のアレンジメニューをレストランで提供しました。今後も食育推進の一環として取組を進めていきます。

◆施策2についての評価・提案

- 地産地消や横浜の農の PR を、様々なツールを使って積極的に行っていることを評価します。街中でも直売所などで横浜農場ののぼりなどを見かけるようになりました。はまふうどコンシェルジュや※地産地消サポート店など、様々な主体と連携しながら、横浜の農の魅力を市民が実感できる取組を引き続き進めてください。
- 企業等との連携についても着実に進んでいます。大学との連携の事例では、農家等と学生が相互に良い影響を与えていることがわかります。今後も企業等のアイデアを積極的に取り入れ、地産地消への関心が広がることを期待します。
- はまふうどコンシェルジュによるマルシェや農作業体験教室の開催は、地産地消の展開に寄与しています。今後は多様な市民ニーズに応えるために、コンシェルジュ同士や、地域の拠点となる地産地消サポート店などが相互に連携を深めることで、地域に密着した地産地消の取組が増えることを期待します。また子どもから高齢者まで、あらゆる世代で地産地消が展開されるよう、新しいニーズに応じた支援を期待します。
- 「はま菜ちゃん料理コンクール」は子どもたちの地産地消や食への関心の高さを感じます。また入賞作品のレストランでの提供は、市民に取組を広く知っていただくとともに、子どもたちへの食育の機会になります。今後もさらなる取組の推進を期待します。

※地産地消サポート店：横浜でとれた、新鮮な旬の野菜や果物、卵、“はまぽーく”などの農畜産物を積極的にメニューに取り入れて、地産地消に取り組んでいる市内の飲食店等

「農を感じる」施策を検討する部会 部会長コメント

「農を感じる」施策を検討する部会は、横浜みどりアップ計画の柱2について評価・提案を行うのを目的としており、具体的には施策1（農に親しむ取組の推進）、施策2（地産地消の推進）が対象です。

施策1では、身近な地域での農園活動へのニーズが高まっており、市民一人ひとりが取り組める市民農園にとどまらず、地域や団体が農活動を継続して楽しめる場づくりも必要となっています。また、水田保全や農地縁辺部への植栽、牧草等による環境対策などは順調に成果をあげていますが、農地転用による集団的な資材置き場化が農景観上も大きな問題となっており、遊休農地の良好な利活用を促す環境を醸成する取組が待たれています。

施策2は、横浜みどり税を充当していない事業・取組となっていますが、地球温暖化対策としての側面も有していることから、流通や生産面での貢献を改めて検証しつつ、より一層きめ細かな活動展開が重要です。とりわけ、従来型の直売所・青空市等を郊外で広がっている「移動販売」につなげる取組や、はまふうどコンシェルジュ・ヘルスマイト・飲食店・農家などが身近な地域で連携した取組などが期待されます。

内海 宏



(3) 計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

街の魅力を高め、賑わいづくりにつながる緑や花、街路樹などの緑の創出に、緑のネットワーク形成も念頭において取り組みます。また、地域で緑を創出・継承する市民や事業者の取組を支援します。

施策1 市民が実感できる緑をつくり、育む取組の推進

事業① まちなかでの緑の創出・育成

みどり税

●事業概要(計画書から抜粋)

多くの市民の目にふれる場所での緑化や目にする機会の多い街路樹を良好に育成するための取組、地域で古くから親しまれている名木古木の保存など、市民が実感でき、生物多様性の保全に寄与し、地域の良好な景観形成や賑わい創出につながる緑の創出・育成を推進します。

●実績

項目	2022 年度		4か年の 実績	5か年の 目標
	目標	実績		
取組(1) 公共施設・公有地での緑の創出・育成				
緑の創出	7 か所	13 か所	34 か所	36 か所
緑の維持管理	推進	44 か所	204 か所	推進
取組(2) 街路樹による良好な景観の創出・育成				
並木の再生	2 路線	3 路線 (1 路線完了・ 2 路線整備中)	9 路線 (7 路線完了・ 2 路線整備中)	10 路線
空き枿の補植	推進	高木 23 本 低木 1,369 本	高木 232 本 低木 4,126 本	推進
良好な維持管理	18 区で推進	15,545 本(18 区で実施)	68,676 本(18 区で実施)	18 区で推進
取組(3) シンボリックな緑の創出・育成				
公有地化による シンボリックな緑 の創出・管理	推進	緑の創出:2か所 (整備中 2か所) 緑の管理:2か所	緑の創出:3か所 (整備完了 1か所 整備中 2か所) 緑の管理:8か所	推進 (想定箇所:継続2か所、 新規2か所)
公開性のある緑 空間の創出支援	推進	2か所	6か所	推進 (想定箇所:10 か所)
取組(4) 建築緑化保全契約の締結				
建築物緑化保全 契約の締結	制度運用	7 件	59 件	制度運用
取組(5) 名木古木の保存				
名木古木の保存	推進	新規指定:1本 維持管理助成:74 件	新規指定:67 本 維持管理助成:268 件	推進



公開性のある緑空間の創出支援
(中区)



名木古木(神奈川区)



公共施設・公有地での緑の創出
中本牧コミュニティハウス(中区)

市担当者からのコメント(環境創造局みどりアップ推進課・道路局施設課)

- 公共施設・公有地での緑の創出・育成では、区庁舎や地区センターなど多くの市民が利用する公共施設で、花壇整備や屋上緑化などの緑化を進めました。また、創出した緑の良好な維持管理も行っています。花と緑のある魅力的な公共施設として緑化を進めることにより、身近な緑を実感できる場所としていきます。
- 並木の再生では、老木化した桜並木などの地域で愛されている街路樹を更新しています。街路樹は街なかの美しい景観形成や緑陰形成による暑さ緩和など様々な役割を果たしています。そのため、道路交通機能の確保を前提にしつつ、樹木を適切な間隔で再配置するなど、街路樹が健全に生育する環境に配慮して整備しています。
- 公有地化によるシンボリックな緑の創出では、2022年度に港の見える丘公園の整備に加え、あらたに(仮称)北寺尾六丁目公園の設計を実施し、多くの市民の目にふれる場所での貴重な緑の創出・育成が進んでいます。
- 公開性のある緑空間の創出支援では、事業所等の緑化整備に際して、市民がまちなかで緑を近くに感じ、実感できる機会の創出が進んでいます。
- 名木古木の保存事業では、維持管理助成は2022年度74本、4か年では計268本となっており、樹木の維持管理が負担となるなか需要が高く、保存の継続につながっています。今後も、利用者に樹木診断や治療、剪定の助成制度をお知らせし、保存に必要な支援をしていくことが必要です。

◆施策1についての評価・提案

- 公共施設・公有地での緑の創出や公有地化によるシンボリックな緑の創出では、街の魅力につながる緑が着実に増えてきたことを評価します。引き続きこれらの緑が良好に維持管理され、市民に親しまれていくことを期待しています。
- 並木の再生では、樹木が生育できる空間が限られているなかで街路樹の健全な生育に配慮した整備が行われ、地域に愛されている並木の更新が進んでいることを評価します。引き続き適切な維持管理により、街並みの美観向上など様々な役割を発揮する良好な育成が進むことを期待しています。
- 公開性のある緑空間の創出支援では、市からの助成を活用し、大学や地域のコミュニティスペースなどの民有地において、市民がまちなかで緑を実感できるような緑空間が創出されています。一方で、4か年実績は想定件数の半数程度となっています。そのため、今までの助成実績から、どのような対象がニーズを持っていて、支援のターゲットとなっているのか分析する必要があります。それらを踏まえ、効果的な広報を行い、認知度の向上につなげ、市民・事業者の利用がより推進されることを期待しています。
- 名木古木の保存をはじめ、民有地での維持管理には、負担軽減が重要となるため、制度によって保全・創出した緑が良好に維持されていくよう、より活用しやすい仕組みや必要な支援の内容について検討を深めていく必要があります。



施策2 緑や花に親しむ取組の推進

事業② 市民や企業と連携した緑のまちづくり

みどり税

●事業概要(計画書から抜粋)

緑あふれる魅力的な街をつくるためには、市民や企業と連携した取組が不可欠です。地域が主体となり、地域にふさわしい緑を創出する取組など、緑の創出・育成に積極的に取り組む市民や企業を支援し、市民の生活の身近な場所で、緑や花に親しむきっかけづくりを推進します。

また、第33回全国都市緑化よこはまフェアなど、これまで多くの市民や企業の協力で展開された各区での緑や花に親しむ取組を、引き続き推進します。

●実績

項目	2022年度		4か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 地域緑のまちづくり				
地域緑のまちづくり	新規6地区	新規5地区	新規 20 地区	新規 30 地区
取組(2) 地域に根差した緑や花の楽しみづくり				
緑や花を身近に感じる各区の取組	18区で推進	18区で推進	18区で推進	18区で推進
地域の花いっぱいにつながる取組	推進	推進	推進	推進
取組(3) 人生記念樹の配布				
人生記念樹の配布	8,000本	6,912本	27,022本	40,000本配布



創出された民有地の緑化
(泉区緑園都市地区)
【地域緑のまちづくり】



緑化活動(ラベンダー花壇の管理)
(磯子区磯子三丁目地区)
【地域緑のまちづくり】

●事業概要(計画書から抜粋)

次世代を担う子どもたちが緑と親しみ、感性豊かに成長できるよう、子どもが多くの時間を過ごす保育園、幼稚園、小中学校を対象に、施設ごとのニーズに合わせた多様な緑の創出・育成を進めます。緑の創出にあたっては、子どもたちと生き物とのふれあいが生まれるような空間づくりに取り組みます。

●実績

項目	2022年度		4か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成				
緑の創出	20 か所	37 か所	168 か所	100 か所
緑の維持管理	推進	130 か所	467 か所	推進



園庭の芝生化
(旭区中希望が丘保育園)



小学校でのビオトープ整備
(鶴見区下末吉小学校)



学校へのビオトープアドバイザー派遣
(鶴見区旭小学校)



校庭・園庭芝生の育て方講座
(保土ヶ谷区保土ヶ谷公園)

●事業概要(計画書から抜粋)

第33回全国都市緑化よこはまフェアには、多くの人を訪れ、緑や花が人を呼び込み、街の賑わいを創出しました。多くの市民が時間を過ごし、国内外から多くの観光客が訪れるエリアである都心臨海部などにおいて、これらの取組を継承し、公共空間を中心に緑や花による空間演出や質の高い維持管理を集中的に展開し、街の魅力や回遊性の向上・賑わいづくりにつなげます。

●実績

項目	2022年度		4か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 都心臨海部等の緑花※による魅力ある空間づくり				
緑花による空間づくりと維持管理	推進	14か所	58か所	推進

※緑花(りよくか)とは・・・樹木や芝生などの「緑」と四季折々の彩(いろどり)としての「花」を組み合わせて植栽することで、街の魅力形成や賑わいづくりを行うものです。



緑花の維持管理
(中区港の見える丘公園)



緑花の維持管理
(中区日本大通り)



花の名所づくり
(保土ヶ谷区横浜市児童遊園地)



緑花の維持管理
(中区山下公園)

市担当者からのコメント(環境創造局みどりアップ推進課)

- 地域緑のまちづくり事業では、個別事業説明に加え、新型コロナウイルス感染状況に留意しながら、集合形式の説明会も実施しました。
提案団体には、地域緑化計画策定に向けた支援を行い、2022年度は5団体が選考を通過しました。市民生活に身近な多くの地区で、花と緑のまちづくりの機運が高まっていると感じます。また、協定締結期間が終了する団体からも、地域に緑や花が増えたという喜びの声や、まちなかの緑化を通じて高齢者と子どもなど地域での新しいつながりが生まれたなどの声が寄せられました。一方で、協定期間終了後の活動継続について、担い手の高齢化や活動資金などの課題があり、活用可能な支援の案内などがより重要になっています。
- 子どもを育む空間での緑の創出・育成では、保育園や小学校等で花壇づくりや記念植樹、園庭・校庭の芝生化を進めています。青々とした芝生に寝転がったり、側転などの運動をしたり、子どもたちが芝生ならではの過ごし方をしています。またビオトープづくりを通して、生きものに触れる機会が増えています。学校では生活科や総合学習などでも効果的に活用されています。
- 緑や花を身近に感じる各区の取組では、身近な公園や地域での花壇づくりやオープンガーデン、ガーデニング講座など、市民・企業等と連携した取組が、全市・地域で広がっています。引き続き、街の魅力向上・賑わいの創出とともに、2027年国際園芸博覧会に向けた機運醸成にもつながっていくよう取り組んでいきます。
- 緑花による空間づくりにより、山下公園や港の見える丘公園、日本大通りなど、都心臨海部等で、緑や花による街の魅力や賑わいづくりを進めています。また都心臨海部に加え里山ガーデンなど、ガーデンネックレス横浜として市内外へ発信し多くの市民や来街者に楽しんでいただくことができました。引き続き、18区での取組などと合わせて、ガーデンシティ横浜の魅力を生み出す取組を続けていきます。

◆施策2についての評価・提案

- 地域緑のまちづくりでは、地域が主体となって地域独自の緑化活動を行っており、年5団体のペースで着実に広がっています。取組を通じて、地域での新しいつながりが生まれ、花と緑のまちづくりの機運も高まっているようです。活動の継続にあたっての課題も生じていますが、それぞれの団体にあった支援をすることで、引き続き取組を推進してください。
- 緑や花を身近に感じる各区の取組では、オープンガーデンの実施など、地域に根差した様々な取組が市民・企業と連携して進められていることを評価します。引き続き、市民に届きやすい形を工夫し、2027年国際園芸博覧会を契機としながら、緑や花への関心や市民参加の広がりが一層展開されていくことを期待しています。
- 子どもを育む空間での緑の創出・育成では、5か年目標を大きく上回る実績となっている点の評価します。計画段階から緑化内容の相談に乗るなどのきめ細やかな対応を行っていることが、緑化の実現とその後の活用につながっています。一方で、維持管理の負担もあることから、創出時点から施設のニーズをくみ取り、支援を行っていくことが重要です。

「緑をつくる」施策を検討する部会 部会長コメント

多くの施策が積極的に活用されているという評価があったものの、今までの助成実績から、どのような対象がニーズを持っていて、支援のターゲットとなっているのかニーズを分析する必要があるなどの意見がでました。緑をめぐる市民の活動や行動は、コロナ等によっても近年、変動していますし、年齢層や地域特性によっても異なっていると思われます。

緑をつくる行動の啓発や活動の推進にうまく機能するようなきめ細やかな対応が必要となってきました。税金を全市民から取得しているからこそ、市民の行動に寄り添うことが必要と思われます。

池邊 このみ



(4)効果的な広報の展開

事業① 市民の理解を広げる広報の展開

●事業概要(計画書から抜粋)

取組の内容や実績について、より多くの市民・事業者理解されるとともに、緑を楽しみ、緑に関わる活動に参加していただけるよう、戦略的な広報を展開します。

●実績

目標	2022 年度実績	4か年実績
広報よこはま等の広報紙への記事掲載	<ul style="list-style-type: none"> ・市版:2件(6月、10月号) ・区版:5件(緑区版6月、8月号、中区版9月号、南区版2月号、戸塚区版2月号) ・こどもタウンニュース(11月号) ・リビング横浜(10月28日号) ・エコチル横浜版(1月号) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市版:のべ12件 ・区版:のべ31件 ・その他広報紙:のべ12件
実績リーフレット作成、自治会・町内会への説明や回覧	<ul style="list-style-type: none"> ・市連会、区連会での実績報告(10月) ・実績リーフレット等の単位自治会・町内会長配布(10月) ・実績リーフレット等の区役所やPRボックスでの配架(10月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市連会、区連会での実績報告 ・町内会等での回覧 ・実績リーフレット等の単位自治会・町内会長配布 ・実績リーフレット等の区役所やPRボックスでの配架
メールマガジンやソーシャルメディア等による情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・「横浜みどりアップ計画メールマガジン」の発行(毎月) ・ツイッターの発信(横浜 GO GREEN @yokohama_kankyo で「#みんなでみどりアップ」を使用した投稿 のべ355回) ・市公式 LINE アカウントを活用した広報(リッチメッセージの投稿) ・イベント会場での Twitter フォローキャンペーンの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「横浜みどりアップ計画メールマガジン」の発行 ・ツイッターの発信(横浜 GO GREEN @yokohama_kankyo) ・市公式 LINE アカウントを活用した広報 ・イベント会場での Twitter フォローキャンペーンの実施

<p>広告、動画等の各種メディアを活用したPR</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市役所アトリウム及び18区役所等で動画放映 ・交通広告の動画放映 (6～7月、10～12月) (市営地下鉄ブルーライン・グリーンライン、JR横浜線、市営バス3営業所) ・YouTube動画配信 ・地域情報webへの記事掲載 ・市営バス・公用車等へのPR用ステッカーの貼付掲載 ・日産スタジアムへのPR看板の掲出 ・横断幕の掲出(動物園、水再生センター、ウェルカムセンター等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市役所アトリウム及び横浜市役所デジタルサイネージ動画放映 ・18区役所で動画放映 ・交通広告の掲載(市営地下鉄ブルーライン・グリーンライン・JR横浜線・市営バス3営業所、京浜急行電鉄、東急東横線、相鉄線、みなとみらい線) ・YouTube動画配信 ・地域情報webへの記事掲載 ・市営バス・公用車等へのPR用ステッカーの貼付掲載 ・日産スタジアムへのPR看板の掲出 ・横断幕の掲出(動物園、水再生センター、ウェルカムセンター等)
<p>ホームページの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・制度やイベントの募集案内(毎月) ・実績報告書掲載(10月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページの更新(実績報告書、計画関連動画の掲載等)
<p>緑に関するイベントでのPR</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スプリングフェア(3～4月) ・春の里山ガーデンフェスタ(3～5月) ・秋の里山ガーデンフェスタ(9～10月) ・農と緑のふれあい祭り(11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントブース出展:15件
<p>取組に基づいて実施したことを示す現地表示(プレート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりアップ計画実施箇所への現地表示板の設置を推進 ・工事看板への表示 ・市民・ふれあいの樹林の案内板へのPRロゴの掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・約1,300枚の公園花壇への現地表示プレートの設置 ・みどりアップ計画実施箇所への現地表示板の設置を推進 ・工事看板への表示 ・市民・ふれあいの樹林の案内板へのPRロゴの掲示

※市民推進会議による広報企画としては、広報誌「Yokohama みどりアップ Action」第7号、第8号を
発行(詳細は8頁「③広報・見える化部会」参照)



広報よこはまへの取組実績の記事掲載
(市版 10月号)



こどもタウンニュース
(令和4年 11月発行)



Twitter の発信 (#みんなでみどりアップ) のべ 355 回



イベントでの Twitter フォロークャンペーン



LINE を使用した広報(リッチメッセージ)



苗木の配布
(秋の里山ガーデン・令和4年 10月)



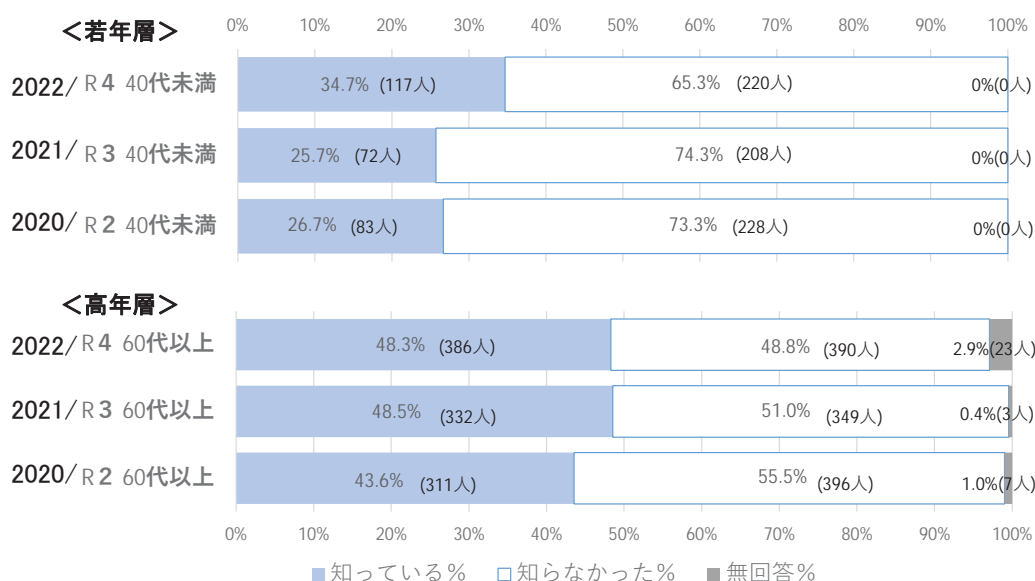
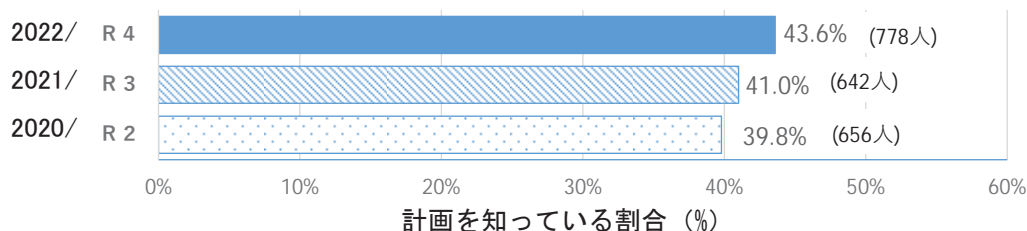
農と緑のふれあい祭り(令和4年 11月)

Q「横浜みどりアップ計画」をご存知ですか？

計画を知っている割合は40%前後で推移。

令和4年度は、43.6%が知っているという回答

あなたは「横浜みどりアップ計画」をご存知ですか？



計画を知っている割合は、高年層で高く、若年層で低い傾向が続いている。

※「知っている」は、「取組内容を知っている」、「あることを知っている」、「名称を見たことや聞いたことがある」の計

「横浜の緑に関する市民意識調査」及び令和2、3年度「横浜みどりアップ計画認知度調査」の調査結果より

■「横浜の緑に関する市民意識調査」

調査対象：市民 5,000 人(住民基本台帳から無作為に抽出した満 18 歳以上の市民)

実施期間：令和4年6月 13 日(月)から 28 日(火)まで

回収数：1,785 票(回収率 35.7%)

■令和3年度「横浜みどりアップ計画認知度調査」

調査対象：市民 5,000 人(住民基本台帳から無作為に抽出した満 20 歳以上の市民)

実施期間：令和3年6月 14 日(月)から7月5日(月)まで

回収数：1,564 票(回収率 31.3%)

■令和2年度「横浜みどりアップ計画認知度調査」

調査対象：市民 5,000 人(住民基本台帳から無作為に抽出した満 20 歳以上の市民)

実施期間：令和2年 10月 21 日(水)から 11 月 11 日(水)まで

回収数：1,647 票(回収率 32.9%)

市担当者からのコメント(環境創造局みどりアップ推進課)

- 全戸配布される広報よこはま市版の1面にみどりアップをイメージする写真掲載とあわせ、実績や取組を紹介し、広く市民へ横浜みどりアップ計画の成果が伝わるよう努めるとともに、リーフレットを作成し、自治会・町内会の配布や説明を行いました。
- 令和4年5月から環境創造局の公式Twitterアカウント「横浜 GO GREEN」にてマスコットキャラクター「横浜みどりアップ葉っぱー」が、みどりアップのイベントや取組を紹介するTwitterの投稿を開始し、355件の投稿をしたほか、横浜市の公式LINEアカウントでのメッセージの投稿やイベント会場でのTwitterフォローキャンペーンを行い、SNSによる発信やPRの強化を行いました。
- 緑に関するイベントへブースを出展し、苗木の配布や「横浜みどりアップ葉っぱー」の着ぐるみとの写真撮影会を行うなど、横浜みどりアップ計画の取組がより多くの方の目に留まるよう、多様な手法による広報を進めています。
今後は、取組への理解が広がり参加することにつながられるよう、世代に応じた効果的な広報手法による発信の強化がより必要と考えています。

◆施策についての評価・提案

- 市民の多くが行政の情報を入手するツールとして利用している広報よこはまへの記事掲載は、みどりアップ計画を伝えるうえで効果的です。また、紙面も写真やイラスト、マスコットキャラクターである「横浜みどりアップ葉っぱー」を使うなど、工夫が見られました。
また、子ども向けの広報紙や地域密着型情報紙など、市民に情報を届けるために様々なツールを活用した広報を継続してください。
- Twitterによる情報の発信は、多くの市民に新しい情報を即座に伝えることができるため、広報に効果的と考えます。また、「#みんなでみどりアップ」による多様な分野の取組を繰り返し発信することによりみどりアップ計画への理解の広がりが見込まれます。
発信内容もイベント情報以外に、公園愛護会による球根ミックス花壇や森づくり体験会など話題も多種多様です。引き続きTwitterによる情報発信の継続を期待します。
- 横浜の緑に関する市民意識調査結果によると計画を知っている割合は前年度から伸びており、これまでの広報の成果を感じられます。認知しやすい広報ツールやイベントでの積極的な広報による効果があったと推察されます。引き続き、様々な年代にあわせた広報の取組に期待します。
- みどりアップ計画の広告が市営地下鉄やバスに掲載され、市民にも相当定着してきたと感じます。今後は2027年国際園芸博覧会の開催に向けたイベントなどでみどりアップ計画の取組を広報できる機会が期待されます。これまでの取組事例や実績を市内外に向けて広報することも検討してください。
- 市民の関心が高い地産地消や農の取組にスポットをあてた広報を行うことは、みどりアップ計画の認知をより高めることにつながります。みどりアップ計画の3つの柱の効果的な発信を検討してください。

広報・見える化部会 部会長コメント

2022年度は、コロナ禍による行動制限が解消され、横浜みどリアップ計画の事業計画の推進は、市民への広報がより重要で、その効果が期待できる年でした。横浜市の広報紙やリーフレットの地域への配布を始め、交通系や市役所や区役所での広報も動画によって配信されました。横浜市のホームページもこれまでの情報が蓄積され、紙面に印刷された二次元バーコードとも連動され、横浜みどリアップ計画の詳細の情報も得られやすくなってきました。

市民委員5名が市民目線で編集に係わる広報・見える化部会発行の広報紙「yokohama みどリアップ Action7号」は、みどリアップの農や緑を支える人材育成支援の一環である「市民農業大学講座」を取り上げました。8号では、市民の森を知り、守る担い手を育成する「森ボランティア入門講座」を2回に渡り取材し、講座後には、参加者のアンケートも試み、結果の一部を広報誌に掲載しました。参加者年齢層は、20代30代が多く、また横浜市のホームページからの情報を得て市外からの参加もあり、ソーシャルメディアによる広報の効果を知ることができました。昨年度当部会の提案で発行された「森づくりボランティア活動証明書」についても関心を示されたことから、緑の担い手に繋がる方法も検討する等、より分かりやすく横浜のみどりを理解し、楽しめ、Actionを起こせる広報誌を目指したいと思います。

高田 房枝



5 市民推進会議委員名簿

横浜みどりアップ計画市民推進会議 名簿(2023年5月時点)

(50音順・敬称略)

役職	氏名	区分	備考
	池島 祥文	学識経験者	横浜国立大学大学院 准教授
	池邊 このみ	学識経験者	千葉大学グランドフェロー
	石原 信也	関係団体	横浜商工会議所 産業振興部長
	今関 美津枝	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長
	岩本 誠	関係団体	三保市民の森愛護会 会長
副座長	内海 宏	学識経験者	(株)地域計画研究所 代表取締役
	奥井 奈都美	公募市民	
	小野 英明	関係団体	横浜農業協同組合 組織部長
	国吉 純	公募市民	
座長	進士 五十八	学識経験者	東京農業大学名誉教授・元学長
	関根 宏一	関係団体	横浜市町内会連合会 幹事
	高田 房枝	公募市民	
	高橋 秀忠	公募市民	
	野渡 リツ子	関係団体	横浜市南西部農業委員会 委員
	村松 晶子	公募市民	
	望月 正光	学識経験者	関東学院常務理事、関東学院大学名誉教授

<施策別専門部会 名簿>

「森を育む」施策を検討する部会 名簿

(50音順・敬称略)

役 職	氏 名	区 分	備 考
	岩本 誠	関係団体	三保市民の森愛護会 会長
	奥井 奈都美	公募市民	
	関根 宏一	関係団体	横浜市町内会連合会 幹事
	高橋 秀忠	公募市民	
部会長	望月 正光	学識経験者	関東学院常務理事、関東学院大学名誉教授

「農を感じる」施策を検討する部会 名簿

(50音順・敬称略)

役 職	氏 名	区 分	備 考
	池島 祥文	学識経験者	横浜国立大学大学院 准教授
部会長	内海 宏	学識経験者	(株)地域計画研究所 代表取締役
	小野 英明	関係団体	横浜農業協同組合 組織部長
	野渡 リツ子	関係団体	横浜市南西部農業委員会 委員
	村松 晶子	公募市民	

「緑をつくる」施策を検討する部会 名簿

(50音順・敬称略)

役 職	氏 名	区 分	備 考
部会長	池邊 このみ	学識経験者	千葉大学グランドフェロー
	石原 信也	関係団体	横浜商工会議所 産業振興部長
	今関 美津枝	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長
	国吉 純	公募市民	
	高田 房枝	公募市民	

広報・見える化部会 名簿

(50音順・敬称略)

役 職	氏 名	区 分	備 考
	奥井 奈都美	公募市民	
	国吉 純	公募市民	
部会長	高田 房枝	公募市民	
	高橋 秀忠	公募市民	
	村松 晶子	公募市民	
	望月 正光	学識経験者	関東学院常務理事、関東学院大学名誉教授

6 市民推進会議委員からのコメント

市民推進会議の委員を務めてきたなかで感じたことや、生活の中で、緑について日ごろ各委員が感じたことについて、委員の皆さまからもコメントをいただきました。

池島委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会 所属）

2022 年度は少しずつコロナ禍からの日常への戻りを意識しつつも、度重なる感染拡大によって翻弄されたような気もします。農業自体は、毎年毎年、目に見えて急激に変化するわけではありませんが、相続発生に伴う農地の転用等を通じて、少しずつ、そして、確実に、農地は減少しています。農地は生産用途に利用されているからこそ、農地としての姿があり、そこに実際に利用する生産者がいるということを改めて感じます。

さて、横浜みどりアップ計画は農業による取り組みも含んでいるものの、農地が生産手段であることに起因して、樹林地等と比較して積極的な支援対象とは位置づけにくい点が散見されます。これらの状況にはみどり税の設計とも関わることでであると理解はしていますが、農地は確実に減少していきます。しかし、その減少をただ座視していて支障ないのか…という点も含め、みどり税とみどりアップ計画の内容を検討すべき時代にあるのではないかと考えます。

石原委員コメント（「緑をつくる」施策を検討する部会 所属）

「みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜」を理念とするこの「横浜みどりアップ計画 2019-2023」は本年度で4年が経過しました。

これまでの計画期間のほとんどがコロナ禍によって閉塞感が漂い活動も制限された期間ではありましたが、皆様のご理解ご協力のもと着実な成果をあげつつあり大変喜ばしく感じております。

最終年度となる 2023 年度の諸事業が、横浜に住む人々の健康増進、子育て環境・生活環境の向上や、さらには観光資源の充実、街づくりへの貢献、都市型農業の振興等、横浜の「魅力づくり」に貢献すると共に、2027 年に迎える「横浜国際園芸博覧会」の開催に向けた機運の醸成等々、多くの役割を担っていくことを期待しております。

今関委員コメント(「緑をつくる」施策を検討する部会 所属)

緑化と言っても広報のむずかしさを感じました。

「校庭、園庭の芝生化」と聞くと全面芝生のサッカー場をすぐに想像してしまい、それは無理、管理や手入れはどうするの、子供達に使うとも言えないし、すぐに禿げてしまうと思ってしまいました。それを現場に行き環境・利用状態など相談・説得し、部分的に芝生化し、自然と親しみながら元気に運動も出来る様、こつこつ積み上げてこられた担当の皆さんの努力に頭がさがります。

まちなかの現場で係わっている者としては、宿根・多年草をふやし、1年草だけの花壇でなく、自然に近い寄せ植的な方が世話も行いやすいのではとも思うのですが、多くの人に手を出してもらうにはどうするのが良いのか悩みます。

岩本委員コメント(「森を育む」施策を検討する部会 所属)

横浜みどりアップ計画で市民とともに次世代へつなぐ森を育むという計画 柱1の中で、樹林地の保全、良好な森の育成という計画がありますが、市民の森等様々な森が横浜市より指定されておりますが、保全された樹林地を市民の皆様が、安心、安全、快適に散策出来る様、さらなる対策が必要であります。

具体的にはナラ枯れ等による、枯木、枯枝等の伐採、枝下ろし等が急務であります。何10年、何100年後を見据えた維持、管理作業が必要だと思えます。

奥井委員コメント (「森を育む」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属)

コロナ禍においてはや3年、市民は生活の中で緑に一層親しみを覚えるようになったと実感します。皆さんに身近に楽しんでいただく良好な緑を育むために、維持管理やそのための人材育成はたいへん重要な役割を持ちます。関心を持つ市民が一人でも多く参加できるように間口を広げるとともに、併せて効果的な広報も展開していく必要があります。自身、一市民としても今後も積極的に関わっていきたく思います。

また、長期的な視点においては、現地調査などで実感した多くの樹林地に見られるナラ枯れの問題と、伐採した間伐材の活用について、みどりアップ計画の今後の課題の一つとして、またその枠組みを超えて、取り組んでいただきたいと思います。

小野委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会 所属）

JA 横浜では、昨年度 20 周年を迎え、緑区十日市場の水田を活用し、「田んぼアート」を制作しました。横浜に残る貴重な水田景観の保全と横浜農業の PR のため意欲のある担い手の協力のもと実施いたしました。小さい規模(2反)での取り組みであったことから、横浜市と連携し、大規模で観光を含めた農景観の取り組みができればと思います。

埼玉県行田市のように、市民1万人を集め、田植えをすることで食育にも寄与できますし、市民全体で農地を維持する取り組みのきっかけになるとと思います。

生活必需品のほか生産資材など円安やウクライナ情勢により価格高騰する中で、先般行われた「横浜市定例記者会見」にあった、下水処理汚泥再生リンの事業は、SDGs のみならず資源循環型のすばらしい施策であると考えます。日本は資源大国ではありませんので、廃棄するものを利活用し、農業に活かすことができれば輸入に頼らずして、食料自給率減少の歯止めになるとと思います。委員の皆様とこのようなことを含め、協議できればと思います。

国吉委員コメント（「緑をつくる」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）

健康増進、維持や家族との時間をより大切にする、そんな生活の変化の中で一番より身近に意識してもらえたのが、自分たちの生活する地域の緑だったのではないのでしょうか？子供達の遊ぶ公園の樹木や街路樹が適切に管理されているか、防犯上安全なのか、四季を感じられるものなのか、ということに関心を寄せる方も多くなりました。その中で公園の整備や、老木化した街路樹の植え替え再生などの計画が着実に行われたことは、市民の皆さんにも目に留まる結果になったと思います。今後は18区それぞれの環境や地域性を生かした「個性のある街づくり」に緑が生かすことができればより一層地域に根ざした緑を生み出すことができるのではないかと思います。

関根委員コメント（「森を育む」施策を検討する部会 所属）

森や緑の減少を考慮しての都市化や住宅地開発は、温暖化による地球環境の悪化を是正する為の、これからの課題と考えます。

樹勢を考慮した都市幹線道路の街路樹の剪定はよく考えられていると感じます。街路樹だけでなくこのような考えをもっと拡大してほしいと思います。今後、少しでも多くの市民の森や地区公園等を生かし大小様々な形で森林や樹木を増やしていくことが必要と考えます。

また、全市民が自分達の街横浜を緑と花で埋め尽くすような考え・行動を醸成できるようなPRや施策も考えるべきだと思います。現在の市民の森が無くなることが無いよう、協力・提供者が増えるような施策や維持管理、協力していただいているボランティアの方達の地域を超えた活動の空気を醸成していくことも大事と考えます。

都心部、郊外部との考えを取り払い、市全域で、森林や緑・花を育む考えを醸成することが、新しい都市の形として横浜から世界へ発信できます。企業やビル街・繁華街・住宅地の緑の確保等が今後の課題と考えられます。

高田委員コメント（「緑をつくる」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）

都市緑地法による横浜市「横浜みどりアップ計画」3期目の最終年度を控え、これまでの多様な取組みにより、緑の総量の維持から緑の質や市民との関り、またその方法やプロセスが重要な課題にシフトしてきたと思われます。みどり税による街路樹剪定は高い技術の継続も考慮され、自然樹形を保ち、心地良い街の景観となっています。今後には、公共の場の緑を入れる場合や老朽化による植え替え時にも時としてその地域の市民と一体となった計画が必要ではないでしょうか。樹木への愛着や、その後の落ち葉や維持管理に影響を及ぼすと予想されます。高木の剪定も当初から高さを決定する等管理計画書を残すのも1方法と思います。

学校や幼稚園での芝生設置等も部分的からでも柔軟に取り入れていただいているそうですが、引き続き子どもたちのために推し進めてください。

個人的には、緑の活動で去年はアーティストさんを招いてみどりに関心がない方でも地域の植物からアートと生物多様性を繋げたイベントを開催し、地域の生物に関心を持っていただくことができました。今後は緑の理解や結びつきで新たな方法も必要かと思われました。

高橋委員コメント（「森を育む」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）

緑地保全制度による新規指定は、コロナ禍や指定緑地の小規模化などで成果を上げにくい状況ですが、着実に指定面積は増えています。

個人ボランティア対象の森づくり体験会では、一つの森で年4回、森の変化を確認しながら森づくり作業を行う取組を始めました。個人ボランティアのスキルアップや愛護会との交流も深まります。今後も個人ボランティアと人手不足の愛護会が助け合う取組を期待しています。

効果的な広報の展開では、色々な手段を使っての情報発信がなされ、市民の目に触れる機会も増えています。さらにイベントでのブース出展には「横浜みどりアップ計画」紹介動画などを映した視覚的な広報を期待します。

野渡委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会 所属）

春の陽気に誘われて、ガーデンネックレスめぐりで楽しんでいる市民に目をひかれます。美しい街横浜の森、樹林地、公園、農地、緑地など「みどり豊かな美しい街横浜」理念に近づいているのが感じられます。それには「みどりアップ計画」の実績の賜と思います。

そして食への取り組み、地産地消を広げるために、はまふうどコンシェルジュさんの活動を身近に感じる昨今です。

都市農業が高齢化問題と相続などで変わり押し寄せる住宅のかたわらで埃が出る農の仕事で気づかいながら乗り越えられるか心配がありますが、農地の緑ときれいに作業された風景は癒されます。

農に関心を持ち、意欲ある若人に期待をして応援したいと思います。

村松委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）

横浜は大都市ですが実は農業都市でもあります。近年、都市農業は、農産物の生産だけでなく、景観、防災、環境学習、交流など多様な意味があるとわかってきました。横浜市の農業は都市農業と言えますが、農地と農家は減り続けています。

みどりアップ計画によって、様々な形の市民農園が開設されていますが、市民農園だけでなく、横浜市民の力を活かして、農家の農地を残す、すなわち都市農業を維持していく「市民ボランティア農園」を提案してきました。一定の研修を受けた市民ボランティアが、団体として農家の指導の下に土づくりから栽培、出荷、場合によっては加工や直売といった農業全体を担い、地域行事や環境共生の知恵も継承する農園です。個人が貸区画で野菜作りをするのに比べて、団体として援農をすると耕作を止めてしまう心配がなく、まとまった農業景観が保たれます。市民団体ならではの地域の交流も生まれ、まさに都市農業の実践となります。

課題となるのは市民団体づくりと農家と市民団体の橋渡しだと思いますが、市民農業大学の修了生の参加や農協の協力をお願いする等、農業に心ある人々が有機的にかかわることで新しい都市農業の形ができるのではないのでしょうか。

7 市民推進会議広報誌

「YokohamaみどりアップAction」

- 第1号（2019年11月発行）
市民の森愛護会
（緑区 鴨居原市民の森）
- 第2号（2020年2月発行）
あぐりツアー
（泉区 横山四季彩園）
（瀬谷区 相澤良牧場/オーガスタミルクファーム）
（瀬谷区 グリーンファーム あい菜フローラ店）
- 第3号（2021年2月発行）
オープンガーデン
（港北区 園芸ボランティアみらい）
- 第4号（2021年3月発行）
市民の森
（緑区 ながつたしゆく長津田宿市民の森）
- 第5号（2021年11月発行）
農園付公園
（泉区 岡津町ふれあい公園）
- 第6号（2022年2月発行）
地域緑のまちづくり事業
（西区 みなとみらい21新港地区運河パーク花時計）
- 第7号（2022年10月発行）
市民農業大学講座
（保土ヶ谷区 環境活動支援センター）
- 第8号（2023年2月発行）
森づくりボランティア入門講座
（緑区 にいはる里山交流センター/新治市民の森）

「森づくり体験会」の案内チラシ（2021年11月発行）

Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.1
2019.11

次世代へつなぐ
鴨居原市民の森



Special Interview

15周年を迎えてますます元気に!

緑区にある鴨居原市民の森。約2haのこの森は、竹林が広がる北地区とクヌギやコナラの雑木林からなる南地区で構成されています。森の歴史や魅力を知り尽くす、鴨居原市民の“森の長”にお話を伺いました。

文：奥井 奈都美、高橋 秀忠



ごみの山から、宝の森に?

その昔、ここは不法投棄された自動車の古タイヤや粗大ごみの山でした。それをどうにか「みんなで綺麗な森にしたい!」と鴨居第八地区自治会長が声をあげ、自治会役員を中心とした有志のメンバーが集まり、森の再生が始まりました。そこで結成されたのが「鴨居原ふれあいの森愛護会」(後の「鴨居原市民の森愛護会」)です。平成16年に愛護会が発足し、翌17年に市民の森が開園してからずっと、地域の皆さんに愛される森を目指して、15年間様々な活動を行ってきました。

親子で参加したくなる楽しいイベント

“子どもたちが故郷とを感じる森づくり”をスローガンに、春の竹の子掘りや夏のソーメン流しなど、親子で参加できるイベントを季節ごとにたくさん行っています。

森からの贈り物に触れて、そして食べて美味しい! イベントには、地域の住民から区境を越えて隣の町の人たちまで、毎回たくさんの参加者で賑わっています。「この森が20年、30年と

続いてほしい」と同愛護会の菅原会長。みどりアップ計画で保全した森を、地域の人がみんなで大事に育てていて、森の恵みが子どもたちに受け継がれていることを感じました。

セカンドライフは愛護会で



活動の中核メンバーは50人程度。それも88歳を筆頭に、70歳以上が約9割を占めています。「月2回の定例活動と、それ以外にも市民の森に隣接する民有地の『ふれあい農園』で作業もしており、けっこう忙しいが、『できる事をできるだけやる。無理はしない』がモットー」「午前中の短時間作業を心掛け、楽しんでいる」と阿部名誉会長と菅原会長。力仕事の多い森の作業は男性が中心ですが、農園の作業は主に女性の得意分野。それがきっかけで、女性会員が増え、今ではメンバーの4割が女性なのだとか。農園で採れた野菜をみんなで山分けしていただくのも、楽しみの一つですね。森で体を動かし、土に触れ、仲間とお喋りを楽しみながらやる、これらが、愛護会の皆さんが元気でいられる秘訣なのでしょう。活動に参加したい!と思えるような、幅広い世代の笑顔と活気あふれる森でした。

Best Point

ここが魅力! 鴨居原市民の森

多様な生き物に出会え、季節の移ろいを実感できる市民の森。イベントには多くの世代の人が集い、笑顔があふれます。そんな鴨居原市民の森の南地区をご紹介します。



3 鎌倉古道沿いの「ハンカチの木広場」
入り口では、花壇と開園記念に植えられたハンカチの木、キンモクセイ、シダレザクラなどが、訪れた皆さんを迎えます。



1 樹木に囲まれた「ふれあい広場」

竹の間伐材を利用した「ソーメン流し」などのイベントを開催し、地域のたくさんの人との「ふれあい」を感じる広場です。



2 市民の森と共存共栄「ふれあい農園」

市民の森に隣接する民有地で、愛護会が地主さんの協力を得ながら農園を開始。野菜を作り、焼き芋大会などで振る舞っています。



鴨居原市民の森愛護会

市民の森ってなに?

横浜市独自の、緑地を保全する制度の一つで、緑を守り育てるとともに、山林所有者の方々のご協力により、市民の憩いの場として利用されています。

市民の森愛護会ってなに?

市民の森の日常的な維持管理をされている地域住民の団体です。平成31年4月までに開園した市民の森39か所で、31の愛護会が活動しています。



みどりアップ計画では市民の森などの制度によって森の保全を推進中。市が森を買い取るときや愛護会の維持管理作業にはみどり税を使っています。

市民の森に 遊びに行こう!

中面でご紹介した鴨居原市民の森以外にも、市内では平成31年4月1日現在39箇所の市民の森が公開されています。

まずは、近くの森に散歩に行ってみませんか?

市民の森利用ルール

- 利用時間は日の出から日の入りまで。
- 植物などを持ち帰ったり、持ち込んではいけません。
- ごみは持ち帰りましょう。

森のガイドマップ 無料配布中!

各市民の森のガイドマップを市民情報センター(市庁舎1階)、各区役所広報相談係、環境創造局みどりアップ推進課で無料配布しています。

ダウンロードは
こちらから!



私たちが「みどりアップACTION」をつくっています!

2019年度から横浜みどりアップ計画市民推進会議広報・見える化部会の委員は新メンバーとなりました。横浜のみどりの現状を市民の視点で捉え、さらに問題点や解決方法を取材し、みどりを点から線、面へと繋ぐために、誰もが行動できる様々なきっかけ、情報を皆さまにお伝えしていきます。

(写真左から国吉、高橋、村松、望月、高田、奥井)

横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

YOKOHAMA みどりアップACTIONとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のACTION(行動・活動)を起こしましょう!!

※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌

ご意見・ご感想を お待ちしております!

みどりアップACTIONについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくは
こちら!



YOKOHAMAみどりアップACTION 第1号
(旧みどりアップQ) (市民推進会議広報誌第36号) 令和元年11月発行
編集:横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会
発行:横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ
横浜市環境創造局政策課(事務局)
TEL:045-671-4214 FAX:045-641-3490
E-mail:ks-mimiplan@city.yokohama.jp



Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.2
2020.2

笑顔あふれる、
農との出会い。



撮影：泉区和泉町

横浜みどりアップ計画



1. 農家の横山さんがお芋の掘り方を説明 3. 焼き芋を試食 4. 参加者全員で集合写真 5. 親子で芋掘り 6. 牛舎の乳牛 7. 生まれたての子牛をのぞき込む子どもたち

横浜で農にふれる、 おいしさを知る「あぐりツアー」



『みなと』のイメージが強い横浜ですが、実は農地がたくさんあり、農産物もたくさん生産されています。そんな横浜の姿を知り、採れたてのおいしさを味わえるイベント「あぐりツアー（横浜農業探検隊）」に参加しました。

文：村松晶子、国吉純

畑で芋掘り体験



今回のツアーは、サツマイモの収穫・牧場の見学・直売所での買い物という内容で、10月に泉区・瀬谷区で行われました。まず横山四季彩園の見晴らしの良い広い畑で芋掘り。ここは横浜市独自の制度「農業専用地区」の畑です。農園主の横山拓巳さんは四代目の若い専業農家さん。ハワイに2年住んで日本の四季の美しさに気づき、日本の自然を感じられる農業に打ち込んでいます。はじめに親子の体験用に準備された飲み水の前集まり、説明を聞き、さあ芋掘りです。思ったより大きいお芋も多く、手で懸命に土を掻き出しながら夢中で掘っていました。「土いじりが楽しい」とみんな笑顔。収穫後には、「つぼ焼き」という専用器具で焼いたお芋がふるまわれ、「こんなおいしいお芋食べたことない!」との声が上がりました。

牧場と直売所の見学



次に向かったのは相澤良牧場。約40頭の乳牛を飼育しています。初めて見る牛に子どもたちがびっくりしていました。7年

前から牧場の牛乳だけを使ったソフトクリームを製造し、カフェを開業。6次産業化[※]することで、経済的に好転したそうです。子どもたちが思わず笑顔になる、優しいミルク味が印象的でした。市街地の牧場なので、近隣との共存が気になりましたが、学校給食への提供や、児童の乳搾り体験などに積極的に取り組んでおり、むしろ地域のシンボルとなるような牧場だと思いました。最後はグリーンファームあい菜^{さい}フロア店。花の苗や野菜が並んでおり、地元の新鮮な野菜の買い物を楽しみました。

農とふれあう場づくりと大学との協働

今回のツアーは、横浜市環境創造局と農的資源を活用した地域活性化や環境に配慮した取組をすすめることを目的として、連携協定を結んだフェリス学院大学の学生さんと佐藤輝教授が企画運営に参加しました。当日は、学生さんがツアーガイドとして、クイズやインタビューを交えながら進行し、農の魅力を柔らかく伝える役割を果たしてくれました。



※農林漁業者が生産から加工・販売までを手掛けること。(1次×2次×3次)



巡った場所をご紹介します



横山四季彩園 (泉区)

葉花、アスパラ菜、トマト、サツマイモなど年間36品目の季節野菜を栽培し、直売所などで販売。横山さんをご用意してくださった「紅はるか」の焼き芋は専用の壺を使い低温で2時間ほどかけて焼いているため、甘くしっとりとしたお味が特徴。※通常は収穫体験は実施していません。

泉区直売所
マップ



相澤良牧場 / オーガスタミルクファーム

約70年の歴史があり、搾りたての新鮮な牛乳で濃厚なソフトクリームなどを作り販売。横浜の酪農家は13軒。横浜の酪農の歴史は古く、日本の牛乳製造販売も横浜が発祥。

- 住所: 瀬谷区阿久和南3-11-11 ●電話: 045-489-6211
- 営業時間: 10:30~16:00
- 休業日: 1月~3月中旬の月曜日・年末年始(3月下旬~12月は無休)

HPは
こちら!



グリーンファーム あい菜フローラ店

総合ガーデニングショップの中にある新鮮な地場野菜が買える野菜直売所。

- 住所: 瀬谷区阿久和南4-8-289 ●電話: 045-360-6887
- 営業時間: 春夏9:30~18:30 秋冬9:30~17:30
- 休業日: 1月・2月の水曜日

HPは
こちら!



＼行ってみよう! 体験してみよう!／



収穫体験情報
はこちら!



あぐりツアー
はこちら!



青空市・直売所
はこちら!

ここがみどりアップ計画

計画では、農とのふれあいを楽しめる場づくりが進められています。あぐりツアーは、その取組のひとつとして実施している農産物の生産現場や直売所などを訪れる企画です。一緒に横浜の素敵な「農」を発見しましょう!



現地調査に行ってきました!

市民推進会議では、横浜みどり税を活用した横浜みどりアップ計画の取組について検証することを目的に、現地を視察する調査部会を毎年実施しています。

2019年10月に泉区を訪れました。文：高橋秀忠

横浜みどりアップ 葉っぱ



和泉小学校 1

2年前にピオトープへと再生された校内の「ニコニコ池」は総合学習の場としても活用されています。子どもを育む空間として維持管理するには、地域の方々のサポートが欠かせません。

こほし 古橋市民の森 2 3

20年前までごみが多かった森が再生され、今年4月に市民の森になりました。訪れたときは、台風19号による倒木などで散策路が通れない状況になっており、愛護会の方は市の協力を得て、森の復旧に取り組んでいました。近隣の高齢者宅の庭木の剪定や庭の手入れなどにも大活躍、愛護会の方々は地域に頼られる存在となっています。

和泉町の水田 4

刈り取られた稲の「はさがけ」も見られ、秋の田園風景が広がっていました。

Column

横浜の農と学校連携

横浜みどりアップ計画では地産地消推進の取組の一環として、市民や企業、大学と連携した様々な取組を行っています。例えば、フェリス学院大学の学生は、横浜市と連携して、Instagramで横浜の「農」と「食」に関する写真を投稿する「ハッシュタグ横浜農場キャンペーン」を実施しており、地産地消のPRなどに協力しています。これからの横浜の農には、市民参加が欠かせません。地産地消の推進に生かされるような活動(Action)に熱心に取り組む学生をととても頼もしく感じました。



横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

YOKOHAMA みどりアップACTIONとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のACTION(行動・活動)を起こしましょう!!

※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌



ご意見・ご感想をお待ちしています!

みどりアップACTIONについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら!



YOKOHAMAみどりアップACTION 第2号

(旧みどりアップQ) (市民推進会議広報誌第37号) 令和2年2月発行

編集:横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会

発行:横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ

横浜市環境創造局政策課(事務局)

TEL:045-671-4214 FAX:045-641-3490

E-mail:ks-mimiplan@city.yokohama.jp



Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.3
2021.2



花がとりもつ、
人との出会い。



※撮影時のみマスクを外していただきました。



緑と花でつながる仲間の絆

園芸ボランティアみらいの
皆さんに聞きました!

港北区にある新吉田地域ケアプラザ。敷地内に咲くきれいな花々をお手入れされているのが「園芸ボランティアみらい」です。その熱心な活動の原動力は？大事に育てられている花を見ることができるといえるベストな機会は？取材を通して見てきたのは、緑と花を介して結ばれる、人と人の絆でした。 文：奥井 奈都美、国吉 純

活動歴はなんと18年! 仲間との交流も楽しみのひとつ

園芸ボランティアみらいは、2000年に新吉田地域ケアプラザで開催された、園芸ボランティア養成講座の修了生が中心となり立ち上げたと言った代表の吉岡さん。設立から18年、メンバーひとりひとりが自分のスキルを上手に生かし、地域での大人の仲間づくりを楽しみながら、息の長い活動を続けています。

現在メンバーの平均年齢は80代。「ここで皆さんと会えるのが楽しみ」、「お花がきれいに咲くのが一番嬉しい」とおっしゃっていました。これが元気の秘訣ですね。

活動エリアは広く、ケアプラザのほとんどの植物を、年間を通してお手入れされています。そんな熱心な園芸活動が認められ、様々な賞を受賞しています。

港北オープンガーデンでお披露目



何った季節は秋、奥の花壇には、色とりどりの可愛らしい花が咲いていました。ポチュラカ、コスモス、ニラバナ、etc. 秋の美しい花がこんなにあったとは、と驚きました。皆さん、おしゃべりを楽しみながら伸び過ぎた枝葉をサクサクと手際よく切っていきます。毎年春に開催されている「港北オープンガーデン」に参加されているとのことなので、次のイベントでは是非ここに来て、春の花と皆さんの笑顔に再会したいと思います。



活動を始められた頃の様子

ここが みどりアップ 計画

緑や花に親しむ市民の盛り上げを醸成するため、「地域に根差した緑や花の楽しみづくり」を進めています。その取組のひとつとして、港北オープンガーデンの運営を支援し、地域発の緑の活動に寄り添っています。





港北区の職員の方に
聞きました!



※2019年度のオープンガーデンの様子。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み中止となりました。

港北オープンガーデンとは?

転入者の多い港北区において、地域への愛着を深めてもらうと始まった取組です。2013年から毎年春に開催され、期間中、会場となっている個人庭や地域の方々がお手入れしている花壇を楽しむことができます。オープンガーデンの企画・運営は、区民ボランティアと港北区役所で組織された「港北オープンガーデン運営委員会」が担っています。ボランティアスタッフに

よる案内所設置や、人気企画のガイドツアーもあり、会場間を楽しみながら歩けるような工夫も。区民の方々に支えられた、地域に根差したイベントになっていますね。お庭のオーナーさんとボランティア、参加者…多様な人たちの出会いの場となり、地域の絆が育まれているそうです。緑と花が人にもたらす力を感じました。

港北オープンガーデン 詳しくはこちら!



やってみようガーデニング ～春の花を楽しむ～

花を置いて楽しみたくなったら、難しく考えず、園芸店などに行って苗を買うことから始めましょう。名前がわからなくても、好きな色の花を選んでベランダやお庭でガーデニングをしてみませんか? 蕾が多くて、しっかりとした苗がおすすです!



葉裏の病気の跡や虫の有無もチェックしておくといいでしょう!

植え方

- 1 プランターに鉢底石をひと並べする。
- 2 肥料を混ぜた培養土を鉢の半分くらいまで入れる。
- 3 花苗を置く。鉢から1cmくらい下まで土がくるように。低すぎるときは調整する。
- 4 苗の周りに土を入れる。割り箸などで隙間なく土が入るように突く。
- 5 苗の土と同じ高さまで土が入り、苗がぐらつかなくなったら完成。
- 6 花に水がかからないようにたっぷり水やりをする。鉢底から水が流れるのを確認したらもう一度、水が流れるまで水やりをする。



春の花壇やプランターに向く花

春の庭やベランダでは優しいパステルカラーの花色がたくさん出回ります。

- ☆ 青い花: ワスレナグサ、ネモフィラ、ブルーデージー
- ☆ 黄色い花: クリサンセマム・ムルチコーレ、カレンジュラ
- ☆ 白い花: スイートアリッサム、ノースポール、マーガレット
- ☆ ピンクの花: リナリア、キンギョソウ、オステオスペルマム、etc.



身近な緑、 増えています!!

横浜みどりアップ計画では、今ある樹林地や農地を守るだけでなく、多くの市民の皆さんの目にふれる場所で、緑豊かな空間を新たに作っています。今回は、「シンボリックな緑の創出・育成」の取組として新たに整備された公園をご紹介します!

六角橋四丁目公園

中央に芝生広場があり、眺めがよく、季節の花も楽しめます。シンボルツリーとして芝生広場の中央に植えられている木は、区の木でもある「コブシ」です。まちなかに心地良い空間が生まれました。



所在

神奈川区六角橋 4-720-4

アクセス

横浜駅から市営バス50系統・
神大寺入口
県営栗田谷住宅前バス停下車
徒歩2分

皆さんの身近な場所にも「新しい緑」があるかも!?
ぜひ、見つけてみてください!

横浜みどりアップ計画

これが
目印!

苗木の数だけ思い出がある 「人生記念樹」

横浜みどりアップ計画では、多くの市民の皆さんが緑をつくり、育むきっかけとなるよう、出生や入学、住宅の新築や購入などの人生の節目の記念に、人生記念樹として苗木を配布しています。思い出とともに人生記念樹を育ててみませんか? インターネットまたは各区の区役所で配布している専用はがきで申し込みます。

区の木などの中から、
お好きな苗木を
選べます!

詳しくは
こちら!

無料
配布!



横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

Yokohama みどりアップActionとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction(行動・活動)を起こしましょう!!

※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌



ご意見・ご感想を お待ちしております!

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくは
こちら!



YokohamaみどりアップAction 第3号

(旧みどりアップQ)(市民推進会議広報誌第38号)令和3年2月発行
編集:横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会
発行:横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ

横浜市環境創造局政策課(事務局)
TEL:045-671-4214 FAX:045-550-4093
E-mail:ks-mimiplan@city.yokohama.jp



Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.4
2021.3

森と過ごす
幸せな時間。



横浜みどりアップ計画



市民の森って何？

「市民の森」、聞いたことはありますか？市民の森は横浜市独自の制度により守られた、散策できる樹林地です。実は、土地所有者を始めとした多くの方の支えにより利用できています。今回は、オープンしたばかりの「長津田宿市民の森」を訪ねながら、市民の森についてご紹介します。

文：高田房枝、高橋秀忠、村松晶子

実は身近にあった市民の森

長津田宿市民の森の出入口は民家のすぐ先にあり、街の中にひょっこり現れる印象です。公園と違い門はなく案内板が目印となっていて、日の出から日没まで自由に出入りできます。私たちが散策できるこのような市民の森は市内に47か所あり、多くは土地所有者と横浜市が契約することで公開されています。こんなに身近なところに森があるなんて、驚く方も多いのでは？

市民の森で見つけた整備の工夫

入口の先には木漏れ日注ぐ樹林地が広がり、街の喧騒から一転、森の精気が感じられます。中は散策路やステージのような広場、野外卓が整備され、親子連れが楽しそうに利用していました。急な斜面地は柵で囲われ安全も確保されています。森の整備にあたっては、その森が持つ景観や特徴を生かせるよう工夫しているそうです。森ごとに異なる表情を楽しみたいですね。



※2021年3月現在。40か所を公開中。





1. 森づくりボランティア体験会 2. クロアグハ 3. 安全管理計画の打合せ 4. マルバシメ 5. ウグイスカグラ 6. アカネスミレ 7. 安全管理計画フォローアップ研修
8. 長津田市民の森案内板

森づくりの担い手 やってみよう!

市民の森では、森を良好な状態に保つため「市民の森愛護会」や「森づくり活動団体」として多くの市民が活躍しています。下草刈りから樹木の手入れまで多種多様な活動をしています。森に興味がある方は、はじめてでも気軽に参加できる「森づくり体験会」があるので、森と関わるはじめての一步を体験してみませんか？

森づくりボランティア —森づくり体験会—

美しく様々な生き物が暮らす豊かな横浜の森は、森づくり活動により守り育まれています。手を入れるとこたえてくれる、森の魅力を味わってみてはいかがでしょうか。



みんなで考える 安全管理計画

将来にわたって良好な森を保つためには、計画的な管理が欠かせません。市民の森では、愛護会、土地所有者、ボランティアなどの市民と行政、専門家が集まって話し合い、未来の森の姿を描いた「安全管理計画」を作っているそうです。

計画では、林・草地・谷戸・土手などの自然環境面や、生き物の保全・育成や環境学習といった機能面、安全面から区域を分け、区域ごとの管理方法などが決められていました。このようにしてみんなの森がつくれ、保たれているんですね。



まずは訪ねてみましょう やってみよう!

市民による、市民のための「市民の森」、いかがでしたか？ 市民の森には、夏の朝に広場の木陰で朝刊を読んだり、鳥や植物の観察会、愛護会が開催するイベント（切った竹で流しそうめんやバームクーヘンづくりなど）に参加したりと、色々な楽しみ方があります。市主催の森づくり体験会に参加してみても良いかもしれません。まずは、お住まいの近くの市民の森を探して、公園とひと味違う市民の森を楽しんでみてください！

市民の森ではフィールド マナーを守りましょう!

- | | | | |
|--|-------------------------|--|---------------------------|
| | 道からはずれない | | 生きものを
持ち帰らない
持ち込まない |
| | ごみタバコ等は
捨てずに
持ち帰る | | 利用時間は
日の出から
日没まで |
| | 火・コンロは
使わない | | ペットは
つないで |

ここにみどり税

市民の森の整備や維持管理、愛護会・森づくり活動団体の支援、安全管理計画づくりなどに横浜みどり税が使われています。



横浜みどりアップ 葉っぴー

2020年4月オープン! 長津田宿市民の森

おのたちらくがん
長津田十景®のひとつ「御野立落雁」すぐ近くにある約3.0 haの森で、日々の散策や自然観察、憩いの場として利用できるエリアと、斜面緑地を保全する樹林保護区(非公開)とがあります。

目を引くのは森の中央にある、まるでステージのような、緩やかな斜面を持った広場です。かつて耕作が行われていた場所を生かして整備されました。



所在 横浜市緑区長津田町2365-2
アクセス JR横浜線・東急田園都市線長津田駅
南口より徒歩10分
(駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。)

長津田宿市民の森のマップはこちら!

※長津田十景詳しくはこちら!

市民推進会議広報誌・バックナンバー公開中!



市民推進会議広報誌のバックナンバーを横浜市のHPで公開しています。市民の森をレポートしたバックナンバーもあるので、ぜひアクセスしてみてください!

詳しくはこちら!

横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

Yokohama

みどりアップActionとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction(行動・活動)を起こしましょう!!

※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌

ご意見・ご感想をお待ちしています!

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら!

YokohamaみどりアップAction 第4号
(旧みどりアップQ)(市民推進会議広報誌第39号)令和3年3月発行
編集:横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会
発行:横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ
横浜市環境創造局政策課(事務局)
TEL:045-671-4214 FAX:045-550-4093
E-mail:ks-mimiplan@city.yokohama.jp



Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.5
2021.11



農園付公園に
行ってみよう。

横浜みどりアップ計画



① 岡津町ふれあい公園 ② アドバイスをする栽培相談員 ③ 団体区画利用の保育園児

農園付公園で 野菜づくりをはじめませんか？

梅雨明け間もない晴天の7月、泉区緑園都市に近い「岡津町ふれあい公園」を訪問しました。

公園といっても中央に広がるのは農園、そして周りを囲む樹林。ここには、子どもや高齢者、障害のある方、

誰もが野菜や土に親しめるきっかけがありそうです。 文：奥井 奈都美、高橋 秀忠



農園付公園とは？

横浜みどりアップ計画において農作業を楽しめる農園を設置した公園で、区画契約者は自由に栽培・収穫できます。公園内は契約者以外も自由に出入りでき、散策などが楽しめます。



自分だけの畑で 自分なりの野菜づくり

農体験ゾーンの団体区画で最初にあったのは、かわいい利用者さん。地元保育園の園児でした。ちょうど収穫にきたところで、手に持っている野菜を見せてもらうと、ピーマン、トマト、ナス、ししとうと色鮮やかな夏野菜でした。「どんな野菜が好き？」という問いかけに、意外にも「ピーマン！」という元気な声。保育園では収穫した野菜を調理し、給食として食べているそう。みんな自分の手で育てた野菜の美味しさをよく知っているんですね。

2年以上個人区画を利用しているという方にも畑を見せていただくと、こちらも立派なトマト、ナス、オクラが育っていました。話を聞くと、せっかく美味しく育ったトウモロコシを、ハクビシンに食べられてしまったとのこと。畑の周りをしっかりと網で囲って獣害対策をしていました。



初めてでも 誰でも楽しめる！

公園にいる指定管理者の栽培相談員が、土づくりをはじめ、植付けから収穫までの野菜の育て方を定期的にアドバイスしてくれます。クワやスコップ、ジョウロ、バケツなどの道具の無料貸出しや土の酸度を測定するサービスも。菜園活動をサポートしてもらえます。

園内には、車イスのままでも野菜づくりが楽しめる「ハートフル菜園」もありました。ここでは近隣の特別養護老人ホームと協働で野菜づくりをしているそうです。



岡津町ふれあい公園の案内図



① 栽培相談員と談笑する利用者 ② ハートフル菜園で植え付けする利用者 ③ 協働農園では地域の方と農作業も



公園×野菜づくり＝ 地域交流?!

この公園を管理しているのは、横浜に根差して130年の歴史を持つ種苗会社。利用者の皆さんは専門の会社から種や肥料を注文することもできるので安心ですね。ここでは「はまっ子ユキ」という、市内の公園緑地や街路樹の管理で出た剪定枝や刈草をリサイクルした環境にやさしい堆肥を提供していました。

感染症が流行する前は、近隣の特別養護老人ホームと連携しながら、農園で採れた野菜を使ってBBQや焼き芋をして、地域の皆さんとの交流を図っていました。再開を楽しみに待っている人もきっと多いことでしょう。



ここにみどり税

みどりアップ計画では、市民が身近に農体験ができる公園として、農園付公園を設置しています。公園整備に横浜みどり税を使っています。

横浜みどりアップ 葉っぱー



市内の農園のある公園

農園のある公園は市内に14か所あり、初心者からベテランの方までたくさんの方が野菜づくりを楽しんでいます。園内を散策することもできますので、まずはお近くの公園に足を運んで農を感じてみてはいかがでしょうか。



市内の農園のある公園

- | | |
|----------------|----------------|
| ① 大榎杉の森ふれあい公園 | 都筑区大榎町472-1 |
| ② 若草台第二公園 | 青葉区若草台6-1 |
| ③ 師岡町梅の丘公園 | 港北区師岡町511-3 |
| ④ 東寺尾一丁目ふれあい公園 | 鶴見区東寺尾1丁目66-1 |
| ⑤ 菅田町赤坂公園 | 神奈川区菅田町222-1 |
| ⑥ 仏向原ふれあい公園 | 保土ヶ谷区仏向町1252番1 |
| ⑦ 南本宿公園 | 旭区南本宿町37-4 |
| ⑧ 南本宿第三公園 | 旭区南本宿町81-3 |
| ⑨ 阿久和富士見小金台公園 | 瀬谷区阿久和東2丁目61-1 |
| ⑩ 今井の丘公園 | 保土ヶ谷区新桜ヶ丘1丁目42 |
| ⑪ 岡津町ふれあい公園 | 泉区岡津町2623 |
| ⑫ 泉が丘公園 | 泉区和泉が丘3丁目6 |
| ⑬ 和泉アカシア公園 | 泉区下和泉1丁目8 |
| ⑭ 深谷町ふれあい公園 | 戸塚区深谷町1272-5 |

☆区画の空き状況、利用料金等については、各公園の指定管理者にお問い合わせください。(各公園のホームページも参考にしてください)

市民推進会議広報誌・バックナンバー公開中!



市民推進会議広報誌のバックナンバーを横浜市のHPで公開しています。「農」をテーマにレポートしたバックナンバーもあるので、ぜひアクセスしてみてください!

詳しくはこちら!



横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民と一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

Yokohama

みどりアップActionとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction(行動・活動)を起こしましょう!!
※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌



ご意見・ご感想を お待ちしております!

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら!



YokohamaみどりアップAction 第5号

(旧みどりアップQ)(市民推進会議広報誌第40号)令和3年11月発行

編集: 横浜みどりアップ計画市民推進会議広報・見える化部会
発行: 横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ

横浜市環境創造局政策課(事務局)
TEL: 045-671-4214 FAX: 045-550-4093
E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp



Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.6
2022.02

みどりがつなぐ
活動のバトン





① 興味をもった保育園児も参加

レガシーつなぐ花時計



みなとみらい地区の運河パークに丸い花時計(日時計)があります。これは、2009年に開催された「開国博Y150」を祝して、横浜青年会議所と市内企業を中心とする実行委員会により開国博入り口前に作られました。当時は30m×40mの大きなものでしたが、終了後の撤去を惜しむ声があがり、市民団体が維持管理を引き継いで、モニュメント周辺部分に縮小して存続しています。10年以上にわたって、市民団体の方々による緑のまちづくりの活動として、ボランティア参加の市民とともに花時計を育んできました。 文: 国吉 純、村松 晶子



花時計に関わる 多くの人々の協力

現在、花時計は「NPO法人横浜移動サービス協議会」によって維持管理されています。開国博時の幹事会社や公益財団法人横浜市緑の協会の支援のもとに活動を進め、「一般社団法人横浜みなとみらい21」からはタネや苗の支援をいただいています。隣接するホテルは、当初より協力いただき駐車場に園芸道具の収納場所を提供。それによって重い道具等を自宅から持っていく必要がなくなりました。今後、ロープウェイで乗降する観光客の方達とのワークショップの開催など、周辺の企業ともいろいろな連携ができることを期待しています。



だれでも参加できる 花壇の手入れ

月2回の作業日には、近隣の自治会や福祉作業所、保育園の子供たちが植替えや水やりに来ています。作業日以外にも水やりなど、気づいた時に手入れをしているそうです。車椅子の方々には貴重な屋外活動であり、子供たちにとっては車椅子の方と交流する機会ともなっています。花壇の手入れをしていると、通りすがりの人が手伝ってくれることもあります。花の好きな人には土に触れることができる魅力的な場です。「花壇のボランティアはいつでも大歓迎!」とのことでした。



花時計から未来へ

2021年4月に桜木町駅から花時計のあるところまでロープウェイが開業。この花時計の花壇と活動の様子をロープウェイを利用する方々、そして駅から散策する方々の目にとまる機会が増えました。今後は、関内駅からこの花壇までの道のりを新たに花のアプローチで繋ぐ企画を考えているそうです。これによって駅と駅、花と花、そして人と人との繋がりがさらに発展していくことになるでしょう。

開国博の記憶とみなとみらいのシンボルとして、企業、市民、行政が協働して美しい花壇を続けていってほしいと願っています。



ここにみどり税

地域緑のまちづくり事業では、「緑や花でいっぱい街をつくりたい」という地域の思いを実現するため、計画づくり、花や木の植栽、維持管理などにみどり税を活用して、緑のまちづくりに地域と協働で取り組んでいます。

横浜みどりアップ葉っぱー





②、③維持管理活動の様子 ④花壇に咲くマリーゴールド ⑤多くの人の目に留まる立地
⑥園芸道具 ⑦花時計を中心に自然と交流が生まれる

みなとみらい21新港地区の 地域緑のまちづくり

みなとみらい21地区などの都心臨海部では、これまでも様々な場所で地域が連携して緑や花によって街を彩る取組が進められています。緑や花で彩られたみなとみらいにぜひお越しください。



①アニヴェルセルみなとみらい横浜(16街区)での緑化 ②マリン&ウォーク横浜(4街区)での緑化
③グランドオリエンタルみなとみらい(11-2街区)での緑化 ④新港中央広場(8街区)での緑化



地域緑のまちづくり 実施一覧

旭区 若葉台もみじ自治会周辺地区



磯子区 洋光台五街区周辺地区



港北区 網島西地区



中区 山下公園通り地区



2021年4月現在

地域緑のまちづくりについてはこちら

https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/midori_up/3ryokuka/chiiimidori/chiiimidori2.html
 問合せ先: 横浜市環境創造局みどりアップ推進課(緑化推進担当) 電話番号: 045-671-3447 E-mail: ks-ryoka@city.yokohama.jp



横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民と一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

Yokohama みどりアップActionとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction(行動・活動)を起こしましょう!! ※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌

ご意見・ご感想を お待ちしております!

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくは
こちら!



YokohamaみどりアップAction 第6号
 (旧みどりアップQ) (市民推進会議広報誌第41号) 令和4年2月発行
 編集: 横浜みどりアップ計画市民推進会議広報・見える化部会
 発行: 横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ
 横浜市環境創造局政策課(事務局)
 TEL: 045-671-4214 FAX: 045-550-4093
 E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp



Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.7
2022.10

市民農業大学講座で学ぶ
「みどり」の助っ人



横浜みどりアップ計画



農や緑を支える人材の育成支援

緑を守りつくるため、横浜市では市民が活動しています。みどりアップ計画の3つの柱のうち「農」と「都市の緑と花」の助っ人をめざして、市民が学ぶ場が市民農業大学講座です。講座の様子と熱心な受講生の声を取材しました。なお、計画のもう一つの柱「森」を担う人材育成については次号で特集する予定です。 文：高橋 秀忠、村松 晶子

市民農業大学講座とは？

野菜や果樹、草花、植木の栽培管理などの基礎を学び、座学で得た知識を実践しながら、栽培技術を身に付けることができる、横浜市主催の有料講座です。

受講生は30人。1年目は、主に保土ヶ谷区にある「環境活動支援センター」での講座(35回)。2年目は、市内の生産農家での農作業実習(10回)になります。

※実習回数は年度により異なる場合があります。



詳しくはこちら！



①座学で当日のカリキュラムを学びます

楽しみながら農業を学んでいます

取材時は、1年目の受講生がトマトやナスなどの収穫、ニンジンの種まき、花壇の管理を4グループに分かれて、和気あいあいとした雰囲気を実習していました。

花壇の植栽計画は、各グループが話し合い、作成します。春は春夏の草花、秋は秋冬の草花による個性豊かな花壇が出来上がります。

受講のきっかけは様々で、

- ボランティア活動の中でさらに知識を深めたい
- 市内に転入してから、程なくして「横浜農場」※を知り農業について学ぶことに心が動いた
- 昔やっていた花の手入りを再開したい

など、横浜の緑を、さらに大事にしたい思いが伝わってきました。

中には、新規に農業参入を目指し横浜ブランドの野菜を作りたい、と意気込んでいる人もいました。どなたも生き生きとした表情が印象的でした。

※「横浜農場」とは、農に関わる生産者や市民、農地・農景観、農業生産活動など「横浜らしい農業全体」を一つの農場に見立て、横浜の食や農のブランド化や魅力発信を目指す言葉です。



②種まきの事前準備



③トマトの収穫方法実習、④プロも使う種まき機を使用したニンジンの種まき実習、
⑤⑥育成した野菜や花、⑦花壇の植栽管理実習、⑧ナシの袋掛け実習

今後の活躍に期待！

2年間の受講の後は「農と緑の環境リーダー」として、農作業の手伝い(援農)や、公園・緑地でのボランティア活動などの場で活躍しています。

すでにボランティア団体や、シルバー人材センターに登録している人もいて、さらに活動を広げることが期待できます。「援農を希望するけれど、農家が受け入れてくれるか心配」という声もあり、修了生と農家との十分な橋渡しが大事だと思います。

修了生の自主組織「はま農楽」

市民農業大学の修了生たちが交流・技術・情報交換を深め、援農、緑化、農地保全などの活動を進めるために「はま農楽」という自主組織を設立しています。110人ほどの会員で、花班、野菜班、果樹班で、それぞれ毎週フォローアップ研修を行い、収穫祭や収穫体験などを行っています(新型コロナウイルス感染症の影響で中止もありました)。

援農については、昨年度は農家からの要望に応じて、延べ日数で、野菜942日、花卉128日、果樹1,342日の手伝いをしたそうです。横浜のような大都市では、市民が農家を手伝う形の援農が進むと良いと思います。「はま農楽」の活動に、今後も期待します。



ここがみどりアップ計画

農とふれあう場づくりとして、市民が農を楽しむ支援する取組を進めています。市民農業大学講座以外にも、子ども向けの農体験教室や、家族で参加できる農体験講座を、市内各地の水田や畑などで開催しています。

横浜みどりアップ 菜っぴー

環境活動支援センターって こんなところ

市民農業大学講座を開催している環境活動支援センターでは、子ども(小学生)とその家族を対象に農作業を体験できる「家族で学ぶ農体験講座」など様々なイベントも開催しています。

また、森の情報を発信し、魅力を伝える「交流スペース」や数十種類のハーブが見られる「ハーブガーデン」など見所が満載です。

ぜひ、一度「環境活動支援センター」に足を運んでみてください!

【所在地】 保土ヶ谷区狩場町213

【アクセス】 最寄りのバス停は「児童遊園地前」・「児童遊園地入口」・「榎太板上」です。各鉄道駅からの案内はこちらからご確認ください。



案内・アクセスはこちら



市民推進会議広報誌・バックナンバー公開中!



市民推進会議広報誌のバックナンバーを横浜市のHPで公開しています。市内の農についてレポートしたナンバーもあるので、ぜひアクセスしてみてください。

詳しくはこちら!



横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民と一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

Yokohama みどりアップActionとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction(行動・活動)を起こしましょう!! ※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌



ご意見・ご感想を お待ちしております!

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら!



YokohamaみどりアップAction 第7号
(旧みどりアップQ) (市民推進会議広報誌第42号) 令和4年10月発行

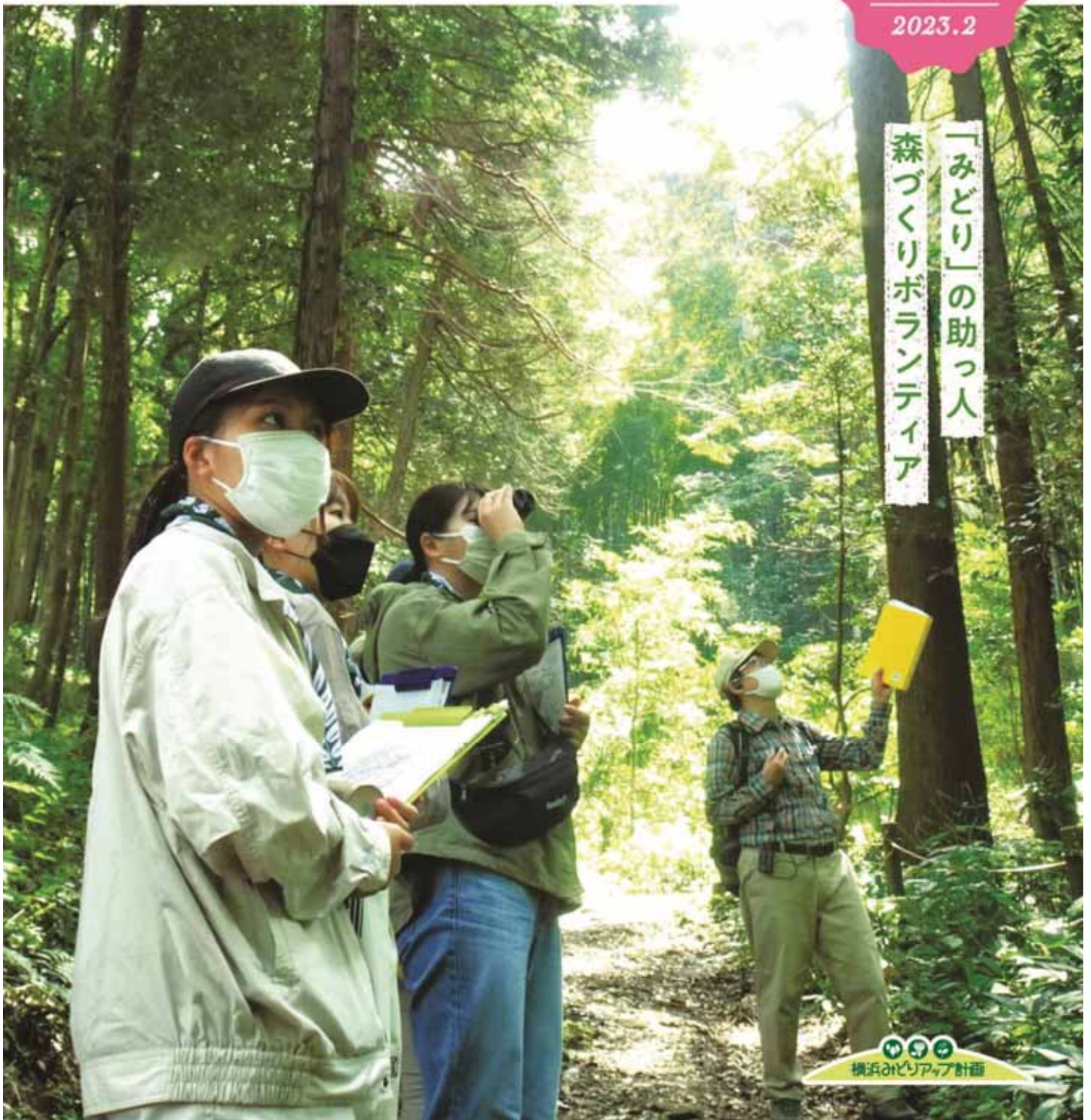
編集: 横浜みどりアップ計画市民推進会議広報・見える化部会
発行: 横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ
横浜市環境創造局政策課(事務局)
TEL: 045-671-4214 FAX: 045-550-4093
E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp



Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.8
2023.2





①森歩き、②「森の断面図」実習の様子、③樹木の説明

「横浜の森」を感じる

横浜の森は、愛護会や森づくりボランティアを始め、多くの人々の支えがあって維持管理されています。森を育む担い手の人材育成を行っている研修は内容もレベルも様々ですが、今回は、数ある研修の中でも初心者向けのふたつの「森づくり研修」についてご紹介します。

文:奥井奈都美、高田房枝

まずはここから「森づくりボランティア入門講座」

「森づくりボランティア入門講座」は事前のオンライン講座、横浜の森に詳しい講師による座学、実際に森を歩きながら生態系や保全計画を学ぶフィールドワーク、そして道具の使い方や森づくりを体験する2~3日の講座です。「横浜の森ってどんなところ?」「森づくりって何をやるの?」「森づくりに参加してみたい」などの声に応える研修講座です。

令和4年10月上旬に緑区の「にいほる里山交流センター」で開催された講座の1日目に同行し、「横浜の森づくりに」に関心を持った20代から60代までの14名を取材しました。参加者は環境を学んでいる大学生や、森づくりボランティアを経験されている方など、中には県外からお越しの方もいました。

講座では、横浜市環境活動支援センターから緑地保全制度や森づくりボランティア制度など横浜の森づくりの概要について、丁寧な説明がありました。その後、多様な市民参加の森づくりマネジメント」と題して、長年森づくりに関わる講師から「森づくりの魅力、里山の昔と今の違い」について話がありました。

市民とともに問題解決する森づくりや保全、里山へのかかわり方などを聞き、身近なテーマであることがよく伝わりました。



座学



森の観察と調査



道具の使い方と森づくり体験

ここにみどり税

活動の基盤となる森の保全に加え、森づくり活動に取り組む市民や団体を対象に、活動のための知識や技術に関する研修を実施し、森づくりを担う人材を育成しています。

横浜みどりファンド 葉っぱ



「森づくりボランティア」とは？

市内の森で森づくり活動に個人で参加できる18歳以上の方を対象にしたボランティア制度です。登録いただくと、研修の案内や活動予定をお知らせいたします。

森について
学んでみたい
もっと森の情報を
知りたい

個人登録申請

制度や
申請方法
はこちら▶



登録して森づくりボランティアになると



- ・「森づくり研修の案内」や「よこはまの森ニュースレター」が届く
- ・「森づくり体験会」への参加
- ・森づくり活動団体加入への足掛かり



④森づくり体験(伐採)、⑤森づくり体験(除草)



参加のきっかけは？

育ててくれた横浜の森への恩返しのため!

生まれ育った横浜の自然について知りたかった。

里山や動植物に興味があった。

もっと森への知識を深めたい!

社会経験の一環に。

ボランティアをしたいと思っていて、たまたま森に興味があったので。

森の保全管理方法を学びにきました。

気候変動を止めるために何かしてみたい。

などなど



参加してみて!

実際の森の中で、森や植物の話を開けて勉強になった。

今後の課題などを知ることができた。

活動の幅が広いので楽しく活動できそう。

講義で聞いたことをすぐ観察できる機会は貴重。

森を歩くことで整備していることに気づけた。

森林を大切に残していきたい気持ちが強くなりました。

などなど

初開催！大学生限定「横浜市森づくり塾！」

若い世代の森への関心を高めるために、大学生版の「森づくりボランティア入門講座」として、初めて実施した「横浜市の森づくり塾」の2日目が令和4年9月中旬に緑区の新治市民の森で、開催されました。1日目の座学を終え、2日目は森に入って樹林の様子や森の保全計画を学びます。

森に入っすぐクヌギなどの高木の群れとその手前に群生するホップに出迎われました。森を進み足元に目をやると、コナラやクヌギなどの実(ドングリ)から発芽したかわいい葉っぱが生えています。人の手が行き届いた雑木林は明るく、ところどころに伐採された樹木の切り株からは萌芽が育ち、こうして森林の若返りを図っています。

一時間ほど歩きゴール地点では講師のアドバイスのもと、観察した樹林地の階層や環境について、図面に落とし込む作業を体験しました。測量機器を使わずに三角形の模型を使って樹木の高さを測る作業など、実践的な学びも多くありました。

参加した学生は、大学で造園や里山について研究をしているなど、様々な視点から「緑」に関心を寄せています。また市内に住む学生からは、「みどり税の必要性を改めて感じた」という声もありました。

いろいろあります！「森づくり研修」

研修内容						
ベーシック	森づくり概論	森づくり概論I	森づくり概論II	保全管理計画	意見交換会・交流会	フォローアップ研修
	安全管理	安全管理(装備・身体)	安全管理(動植物)	安全管理(救急・保険)	安全管理(KY事故事例)	森づくり体験会
	自然観察	自然観察(野草・樹木)	自然観察(昆虫)	自然観察(野鳥)	自然観察(冬芽)	インタープリター養成講座
	道具の使い方	カマ・ナタ	ノコギリ 剪定バサミ	ロープワーク	道具の手入れ	※左記のテーマに沿うもの
スキルアップ	作業実習I	草刈ササ刈り	剪定・伐採 枝払/玉切り	竹伐採 枝払/玉切り	ロープシステム	※左記のテーマに沿うもの
	計画・調査	モニタリング調査	樹生・環境を眺むI	樹生・環境を眺むII	作業計画の作り方	フォローアップ研修
	作業実習II	中木伐採II(ロープ使用)	竹伐採II(ロープ使用)	ロープシステム	運地・水辺の管理	森づくり体験会
	間伐材活用	粗朶薪	土留め作成(発生材活用)	竹垣/竹柵 竹発生材活用	道具作成 発生材加工	インタープリター養成講座
リレー研修	広報団体間交流	チラシの作り方	広報スキル	団体受入マナー	意見交換会・交流会	※左記のテーマに沿うもの
	団体・組織マネジメント	作業/イベントリーダー養成	安全管理者養成	団体・組織マネジメント	アドバイザー養成	インタープリター養成講座

※研修は上記内容を組み合わせて実施します。

横浜市では森に関する知識や安全に活動を行っていただくためにさまざまな研修を行っています。

森に関する知識、技術を学んでみてはいかがでしょうか。

※研修を受講するには森づくりボランティアの登録が必要です。



道具の使い方研修

自然観察講習会

森づくりボランティア以外にも、森を守る「市民の森」制度があります。4号で特集していますので、あわせてご覧ください。



【問合せ先】

横浜市環境創造局みどりアップ推進部
環境活動支援センター
TEL:045-711-0635
E-mail:ks-shlncenter@city.yokohama.jp

具体的な
研修内容は
こちら



今回の
研修場所

「新治市民の森」

指定面積が約68haもあり、市内2番目の大きさを誇る市民の森です。里山や谷戸の風景が残されており、四季折々の風景を見ることができます。

北側には「にい はる里山交流センター」があり、ウェルカムセンターとして市民の森や自然の情報の発信を行うだけでなく、自然観察や里山の暮らしを体験する教室などを催しています。



所在
緑区新治町、三保町

アクセス
JR 横浜線十日市場駅南口より徒歩15分

駐車場
市民の森駐車場
(愛護会が管理している駐車場です。)
土、日、祝のみ利用可/
利用時間:午前9時～午後5時



◀散策マップはこちら
「新治市民の森愛護会」ホームページ
<http://niijharu.la.cocacn.jp/map/index.html>

「森づくりボランティア活動証明」配付中

実際の森で樹木の手入れなどの活動を体験できる「森づくり体験会」を定期的に開催しています。

森づくり体験会に参加すると、ボランティア活動した証明として「森づくりボランティア活動証明」カードがもらえます!

森づくり体験会の詳細・申込はこちら

[NPO よこほま里山研究所NORA]ホームページ
<https://nora-yokohama.org/join/?cat=154>



横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民と一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

Yokohama

みどりアップActionとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction(行動・活動)を起こしましょう!!
※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌



ご意見・ご感想を お待ちしております!

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくは
こちら!



YokohamaみどりアップAction 第8号
(旧みどりアップQ) (市民推進会議広報誌第43号) 令和5年2月発行
編集: 横浜みどりアップ計画市民推進会議広報・見える化部会
発行: 横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ
横浜市環境創造局政策課(事務局)
TEL: 045-671-4214 FAX: 045-550-4093
E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp





ヨコハマ 「森づくり体験会」

森づくりボランティアしませんか？

参加者
募集

「森づくり体験会（ボランティア）」に
参加して、身近な森をもっとよく知り、
まもる活動を一緒にしませんか？

横浜には、大都市でありながら
多くの樹林地が残されています。
良好な森を維持するためには、人
の手による管理が必要で、管理が
行き届かないために荒れてしまう
森も少なくありません。



横浜には緑豊かな樹林地が多く残されています



良好に管理された森で
散歩や森林浴を！



小さな木の間伐作業

こんな作業を
します！



ササ刈り作業

森づくり体験会とは？

「森でボランティアをしてみたい！」と思った方と、手入れを必要
としている緑地との橋渡しをお手伝いするプログラムで、草刈り
や小さな木の伐採等、森の管理の基本となる作業を行います。
スタッフがいているので初心者でも安心してご参加いただけます。

森づくり体験会に参加すると??

ボランティア活動したことを
「証明するカード」がもらえます！

さらに-

- ・身近な森を守る活動ができます。
- ・森づくり活動に必要な技術・知識が身に付きます。
- ・市内で活躍する森づくりボランティアとの交流ができます！



森づくり
ボランティアに
参加しました！

森づくり体験会の詳細・申込はこちら！

※QRコードを読み込むか、URLにアクセスしてください。
URL：<https://nora-yokohama.org/join/?cat=153>
【森づくり体験会運営団体（よこはま里山研究所 NORA）のホームページにリンクしています】
※申込み先着順で定員になり次第申込み締め切りとなります。



開催日・場所等
最新情報が
掲載できます。



※森づくり体験会への参加には森づくりボランティアへの登録が必要です。（参加当日の登録も可）森づくりボランティア、登録方法についての詳細は裏面をご覧ください。

発行 横浜みどりアップ計画市民推進会議
広報・見える化部会

問合せ 横浜市環境創造局政策課
電話 045-671-4214 FAX 045-550-4093
Eメール：ks-mimiplan@city.yokohama.jp



森づくりボランティアについて

横浜の森では、多くのボランティアの方たちが生き物の多様性や人の利用等に配慮した草刈り、間伐、生き物調査といった「森づくり活動」を行っています。横浜市はそのようなボランティアの方たちに、様々な支援を行っています。

※森づくりボランティアは、横浜市市民協働による森づくりに関する要綱に基づく制度です。

■登録条件は？

・18歳以上の横浜市在住・在学・在勤の方

■森づくりボランティアに登録すると？

こんな支援が受けられます！

ニュースレターによる情報提供



よこはまの森ニュースレター

森づくり活動団体や森づくりグループの紹介、イベント等、森づくりに役立つ情報をお届けします。

森づくりに関する研修案内



自然観察講習会チラシ 森づくり体験会チラシ

森づくりに関する技術・知識を学ぶことのできる研修等の情報や森づくりを行っている団体の情報提供を受けることができます。

※体験会当日の登録もOK!

森づくりボランティア登録のながれ

- ①横浜市みどりアップ推進課ホームページから申請書をダウンロード
- ②みどりアップ推進課に申請書提出（メール・FAX可）
- ③承認・登録完了

みどりアップ推進課 HP（森づくりボランティア 支援の仕組みと手続き）

https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/midori_up/1mori/volunteer/mori-youkou.html



横浜みどりアップ計画とは？

豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています



横浜みどりアップ計画



2023年12月発行
横浜みどりアップ計画市民推進会議